



令和4年4月20日
事務連絡

各都道府県衛生主管部（局）
各都道府県民生主管部（局）
国民健康保険主管課（部）

御中

厚生労働省医政局総務課医療国際展開推進室
厚生労働省保険局国民健康保険課

来日したウクライナ避難民の患者受入れ環境整備支援等及び
国民健康保険の適用について

平素から厚生労働行政の推進に御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

現在、関係府省庁において、来日したウクライナ避難民の方々に対する支援について、検討・取組が進められているところです。

厚生労働省では、医療機関において、ウクライナ避難民の方々に適切に対応いただけるよう、従前から外国人患者に対応する医療機関への支援策として実施している「希少言語に対応した遠隔通訳サービス事業」にウクライナ語を追加するなど、各種支援の取組を進めているところです。

また、ウクライナ避難民に対する国民健康保険の適用については、「ウクライナから避難を目的として入国した外国人に係る国民健康保険の適用について」（令和4年3月18日付け厚生労働省保険局事務連絡）において、現行の外国人に対する適用と同様の取扱いとなる旨をお示ししているところです。

今般、医療分野において、ウクライナ避難民患者への適切な受入れ環境の整備に向けて実施している取組について、改めて、下記のとおり整理しましたので、貴都道府県管内の医療機関に対し、各種支援策を活用し、ウクライナ避難民患者に対する適切な医療の提供について最大限協力いただくよう周知と協力依頼をお願いするとともに、貴都道府県内の市町村（特別区を含む。以下同じ。）及び国民健康保険組合に対し、引き続き、国民健康保険の運用に関する周知をお願いします。

なお、令和4年4月19日付けで、出入国在留管理庁より、各都道府県および避難者の方々に対し、就労、医療・介護・子育て及び就学に関する取組について情報提供されていますので、参考として送付します。

また、ウクライナ避難民の方々への対応については、厚生労働省を含め関係省庁において引き続き検討を進めており、新たな情報について、随時情報提供させていただきますのでよろしくお願いします。

1. ウクライナ避難民患者の受入環境の整備に向けた支援策

(1) 希少言語に対応した遠隔通訳サービス事業（別添1）

民間サービスが少なく、個々の医療機関においては通訳者の確保等が困難な希少言語に対して、国が有料の電話通訳サービスを24時間体制で提供しています（令和4年度はウクライナ語を含めた17言語）。利用時に簡単な登録をいただければ、全ての医療機関に利用いただけます。

ウクライナ語の通訳サービスの利用料金については、ウクライナ避難民受入の対応方針を踏まえ、当面の間、無料とします（通話料は利用者負担となります）。

【概要資料】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/newpage_00015.html

(2) 国による外国人対応に係る医療機関向け電話相談窓口の開設（夜間休日ワンストップ窓口事業）

都道府県による医療機関向けの外国人対応に関する相談窓口の運営事業を補完するため、夜間休日（平日17時から翌9時まで、土日祝日24時間）は、国において医療機関向け電話相談窓口を開設しています。ウクライナ避難民の受入れを含め、医療機関における外国人患者対応に関する諸課題の解決に向け、国が委託運営するコールセンターが支援しています。

また、当事業の一環として、自治体からの相談にもメールにて24時間受付対応しています（医療機関から自治体に寄せられた外国人対応に関する相談について助言）。

【概要資料】

<https://www.onestop.emergency.co.jp/>

(3) 外国人向け多言語説明資料

診療申込書、医療費請求書、診療科毎の問診票、同意書等について、英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語のひな形がダウンロードできます。現在、ウクライナ語のひな形について作成を進めているところであり、でき次第、追って周知します。

【概要資料】

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/kokusai/setsumeiml.html

2. 国民健康保険の適用について

ウクライナ避難民については、「短期滞在」の在留資格の期間中においても、本邦滞在を希望する場合、「特定活動（１年）」の在留資格への変更許可申請を提出することができます。

ウクライナ避難民が「特定活動（１年）」の在留資格を付与され、国民健康保険の適用除外要件に該当しない場合には、現行の外国人に対する国民健康保険の適用と同様、市町村において外国人住民となった日から国民健康保険の資格の適用となるため、適切に運用いただくようお願いします。

なお、出入国在留管理庁より、ウクライナ避難民に対し、別添のとおり国民健康保険に関するリーフレットを配布しているため、ウクライナ避難民からの相談等において適宜活用いただきますようお願いします。

【照会先】

○１ に関する こと

厚生労働省医政局総務課医療国際展開推進室

（内線：2678、4115、4457）

（代表）03-5253-1111

○２ に関する こと

厚生労働省保険局国民健康保険課

（内線：3138、3189、3258）

（代表）03-5253-1111

厚生労働省では希少言語に対応した遠隔通訳サービスを提供します

本サービスは医療機関であれば、どなたでも申込が可能です。

電話通訳サービスのご案内

平成 30 年の訪日外国人は 3,119 万人と引き続き増加している中、外国人患者が安心して日本の医療機関を受診できる体制を整備することが重要であり、厚生労働省では、医療通訳者の医療機関への配置などへの財政支援を実施してきました。

しかし、使用頻度が少ない言語、いわゆる希少言語については、費用対効果の面から医療機関が通訳サービス提供事業者と常時契約するのは困難な場合があると考えられ、また、通訳者の数の確保等の課題もあると指摘されています。このような状況から、希少言語に関する通訳サービスは、主要な言語とは異なり、民間事業者による安定的なサービスが行き届かない可能性も考えられます。

本事業では、民間サービスが少なく、通訳者の確保が困難な希少言語に対して、行政が遠隔通訳サービスを提供することを目的として、「希少言語に対応した遠隔通訳サービス事業」を実施し、外国人患者の受入れ環境の更なる充実を目指すものです。

※新型コロナウイルス関連の患者対応時にもご利用いただけます。

サービス内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ ご来院の外国人患者との電話通訳サービス ・ 外国人患者からの外線入電に対する 3 者間通訳サービス (病院の交換台などが 3 者間の電話に対応している場合)
対象機関	全国の医療機関（サービスの利用には登録が必要です）
対応言語	タイ語、マレー・インドネシア語、タミル語、ベトナム語、フランス語、ヒンディー語、イタリア語、ロシア語、ネパール語、アラビア語、タガログ語、クメール語、ドイツ語、ミャンマー語、ベンガル語、モンゴル語、ウクライナ語※
対応期間	2022 年 4 月 1 日 ～ 2023 年 3 月 31 日 24 時間体制
利用料金	最初の 10 分は 1,500 円、以降 5 分あたり 500 円（通話料は利用者負担） ※ウクライナ語の利用料金について ※ウクライナ避難民受入れの対応方針を踏まえ、ウクライナ語の通訳サービス利用料は当面の間無料とします。（通話料は利用者負担）

この他、夜間・休日に外国人対応に関するお困りごとがある場合には以下にご相談ください。

厚生労働省夜間・休日ワンストップ窓口（03-6371-0057 平日 17 時～翌朝 9 時まで、土日祝日 24 時間）

電話通訳サービス 登録の手順

事前申し込み

受付確認

運営事務局から
電話番号の連絡

利用の開始

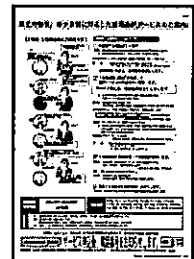
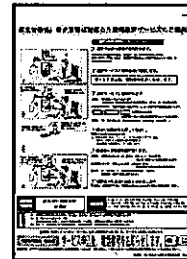
- ①本サービスをご利用になるには、別紙の
申込書での事前登録が必要になります。
必要事項をご記入の上、下記宛先にメール
またはFAXで申込書をご送付ください。
メール：mhlw-office@bricks-corp.com
FAX：03-5366-6002

電話通訳サービス
の申込書

※2022年3月までにご登録済の医療機関はご利用にあたっての再申し込みは不要です。
※登録前の緊急時利用の場合は、下記問い合わせ先（運営事務局）までご相談ください。

電話通訳サービスのご案内

- ②ご利用方法については、
別紙のご案内資料をご一読ください。



- ③ご利用になる際は、言語を特定することにより
スムーズな通話が可能となりますので、
「言語指さし表（登録後に送付）」をご利用ください。

注意事項

- ・ご利用にあたっては、通話料は利用者負担となります。
- ・通訳費用は実際の利用時間に応じて月末締め翌月末払いで請求書を発行いたします。
- ・サービスの契約料、月極めの利用料等はありません。
- ・本サービスは登録された医療機関のみご利用いただけます。
- ・ご不明点は運営事務局までお問い合わせください。

問い合わせ先（運営事務局）

TEL：03-5366-6018（平日 9：30～18：00） / 03-4332-1288（平日 18：00～翌 9：30・土日祝日 24 時間）
FAX：03-5366-6002 E-mail：mhlw-office@bricks-corp.com
〒160-0022 東京都新宿区新宿 4 丁目 3 番 1 7 号 FORECAST 新宿 SOUTH 4F 株式会社 BRICK' s 内

事務連絡
令和4年4月19日

都道府県多文化共生施策担当部局長 殿
政令指定都市多文化共生施策担当部局長 殿

出入国在留管理庁出入国管理部
出入国管理課長 西山 良

来日したウクライナ避難民の方々への情報提供等について（２）

平素から出入国在留管理行政に御理解・御協力を賜りありがとうございます。

来日したウクライナ避難民の方々に対する国の支援については、現在、関係府省庁において具体的な対応策の検討を順次進めているところであり、本年4月14日（木）に避難民の方々に手紙を発送し情報提供を行い、本年4月14日付け事務連絡「来日したウクライナ避難民の方々への情報提供について」において御案内したところです。

その後、本年4月19日（火）に、就労、医療、介護、子育て及び教育について、別添1から別添7までのとおり、避難民の方々に手紙を発送し情報提供を行いましたので、御参考までに送付いたします。

また、ウクライナ避難民の方々への手紙の内容である、就労、医療、介護、子育て及び教育に関する情報について、関係省庁から各地方公共団体の所管部局宛てに以下の内容の御連絡をしておりますので、御参考までに共有いたします。

多文化共生部局におかれましては、本事務連絡について、所管部局と情報共有の上、御対応いただけますようお願いいたします。

1. 就労支援について

就労支援については、ハローワークにおいて、ウクライナ避難民の方々のニーズを踏まえた、職業紹介をすることとしており、就労を希望するウクライナ避難民の方々に、地域のハローワークで、仕事を紹介することが可能であること。（令和4年4月15日時点で支援の申し出企業は、405件。）

同様の内容を、都道府県・市区町村の外国人雇用対策担当課室に連絡済みであること。

2. 国民健康保険への加入について

ウクライナ避難民については、「短期滞在」の在留資格の期間中においても、本邦滞在を希望する場合、「特定活動（1年）」の在留資格への変更許可申請を提出することができ、「ウクライナ避難民が「特定活動（1年）」の在留資格を付与され、市町村において外国人住民となった日から国民健康保険の資格の適用となる」旨を都道府県民生主管部（局）国民健康保険主管課（部）に連絡済み（「ウクライナから避難を目的として入国した外国人に

係る国民健康保険の適用について」（令和4年3月18日付け事務連絡））であること。

3. 介護保険について

ウクライナ避難民に係る介護保険の適用については、「現行の外国人に対する介護保険の適用と同様の取扱いとなること。具体的には、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の45に規定する外国人住民を介護保険の被保険者とする」旨の事務連絡を各都道府県及び各区市町村介護保険主管部（局）に発出済み（ウクライナから避難を目的として入国した外国人に係る介護保険の適用について（令和4年4月7日付け厚生労働省老健局介護保険計画課事務連絡））であること。

4. 子育てについて

子育て支援に関して、以下のウクライナ避難民の方々への対応について、子育て支援担当部署に連絡（令和4年4月19日事務連絡）済みであること。

- ・求職活動や就労等（※）により児童を預ける必要がある場合、保育所等において児童を預けることが可能であること。
- ・昼間に一時的に児童を預かる「一時預かり事業」、子育て中の親子が交流し、不安・悩みを相談できる「地域子育て支援拠点事業」、子育てに関する情報提供、相談を受けられる「利用者支援事業」などの子育てサービスを利用可能であること。
- ・児童の年齢等に応じて「児童手当」を住所地の市町村に請求することが可能であること。

（※）保育所等を利用するためには認定が必要であり、利用を希望する場合、市区町村へ相談すること。

5. 教育について

ウクライナ避難民の方々が、幼稚園、小学校、中学校、高校、高等専門学校、大学への子供の就学を希望する場合に役立つよう、相談先や、就学等に関する資料をまとめているところであること。

ウクライナ避難民の子供が就学を希望する場合の積極的な受入れや、就学や学校での指導等についての留意事項について、全国教育委員会や地方公共団体、大学等に連絡（令和4年4月18日付け事務次官通知）済みであること。

さらに、日本語教育については、文化庁が実施する「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」等においてその支援を行っているところですが、当該事業等を活用してウクライナからの避難民の方々を対象とした日本語教室の実施等へ支援を行うことを検討しており、文化庁より、貴部局宛てに具体的な情報について追って御連絡することとしています。

最後に、国による支援の内容に関しては、前回の事務連絡でお伝えしたとおり4月21日（木）に自治体衛星通信機構のシステムを用いたオンラインでの自治体向け説明会を実施いたします。詳細は下記のとおりです。

各都道府県におかれましては、管内市町村（特別区を含む。）への周知につきましても併せてお願い申し上げます。

添付物

- 1 命が危ないためウクライナから日本に来た皆様へ(令和4年4月19日付け)
(ウクライナ語版・日本語版・英語版)
- 2 ハローワークが仕事探しを手伝います(ウクライナ語・英語・日本語)
- 3 病気やケガに備え、国民健康保険への加入が必要です。(ウクライナ語・日本語・英語)
- 4 子育て支援のサービスを受けることができます(ウクライナ語・日本語・英語)
- 5 就学ガイドブック(英語・日本語)
- 6 高校で勉強したい外国人のみなさんへ(ウクライナ語・日本語)
- 7 就学援助制度(ウクライナ語・日本語)

記

- 1 開催日時
令和4年4月21日(木) 13時30分～14時30分
- 2 対象者
都道府県及び市区町村の担当者
- 3 開催方法
一般財団法人自治体衛星通信機構の地域衛星通信ネットワーク(LASCOM ネット)を通じてライブ放映を行います。また、説明会后、当日の録画映像をYouTube 法務省チャンネルにおいて、関係者に限定する形で配信を予定しております。視聴用のURLは別途連絡いたします。

- ・チャンネルは地域衛星通信ネットワークの1chです。
視聴の方法等は、貴庁内担当課(消防防災部局等)にご確認ください。
LASCOM ネットについてご不明な点は、一般財団法人自治体衛星通信機構
情報企画課(TEL: 03-6261-1539 FAX: 03-6261-1534)へお問い合わせください。
- ・当日、視聴できない場合は、後日、録画映像をご覧ください。
- ・YouTube 法務省チャンネルの視聴用URLの送付には、説明会終了後一週間程度要する見込みです。

- 4 資料
前日までにek-Bridgeにアップロードの上、その旨メールにて御連絡いたします。説明会当日は印刷した資料をお手元に御用意いただき視聴をお願いいたします。
- 5 御質問・御意見への対応
上記3の地域衛星通信ネットワーク(LASCOM ネット)の技術的制約により、双方向での通信ができないため、当日の質疑応答はございません。御質問・御

意見につきましては、以下のメールアドレス宛てに、質問件名、質問内容、担当者連絡先をメール本文に記載の上、御提出願います。なお、添付ファイル等は添付しないでください。また、御質問・御意見につきましては、電話ではなく必ずメールでの御提出をお願いいたします。

メールアドレス：ukraine_jichitai@i.moj.go.jp

以上

担当者連絡先

法務省出入国在留管理庁出入国管理部

出入国管理課 担当 小林（仁）、池田、佐藤、杉山

電話：03-3580-4152

19 квітня 2022 рік

Міграційна служба Японії

Інформація для осіб, які прибули до Японії, рятуючись від загрози життю і здоров'ю.

1. Міграційна служба приймає заяви від осіб для отримання дозволу зміни статусу проживання на "Особливі види діяльності (1 рік)", що дозволить вам працювати. Особи, які змінять свій статус на "Особливі види діяльності (1 рік)", отримають посвідчення особи, яке називається "картка резидента". Якщо у вас це буде, ваше життя в Японії буде зручнішим, і ви зможете оформити національне медичне страхування, про яке написано нижче в пункті 3 цього листа. Тому, будь ласка, змініть свій статус проживання. Якщо ви хочете змінити його, зателефонуйте до довідкової служби FRESC за телефоном, наведеним нижче в пункті 5.

2. **Особам, які хочуть знайти роботу.**

У "Hello Work (=державне бюро із забезпечення зайнятості)" державні службовці допоможуть вам знайти роботу.

При цьому не потрібні жодні витрати.

Спочатку варто звертатися до місцевого відділення Hello Work.

Якщо ви не знаєте, де знаходиться найближчий офіс Hello Work, ви можете зателефонувати за номером 0800-919-2901 (консультаційна лінія англійською мовою).

*Ви також можете поговорити у Hello Work англійською мовою.

Однак, якщо у вас є член сім'ї або друг, який говорить японською мовою, будь ласка, по можливості приходьте з ними.

3. **Особам, які потребують медичних, сестринських та дитячих послуг.**

При отриманні медичної допомоги у Японії ви повинні бути членом Національного медичного страхування. Якщо ви приєднаєтеся до Національного медичного страхування, вам слід заплатити лише 20% або 30% від вартості лікування під час відвідування лікарні з приводу хвороби або поранення.

Крім того, особи віком 40 років і старші зобов'язані оформити страхування довгострокового догляду, і якщо цим особам знадобиться догляд, вони зможуть отримати послуги довгострокового догляду за 10% від вартості довгострокового догляду.

Послуги по догляду за дітьми. Якщо потрібно залишити дитину на короткий проміжок часу для вирішення невідкладних питань або потрібно залишати дитину на більш тривалий період часу щодня, щоб попрацювати, то для вас є послуга, що відповідає вашій ситуації.

Для отримання додаткової інформації зверніться до місцевої адміністрації.

Якщо у вас є член сім'ї або друг, який розмовляє японською мовою, будь ласка, постарайтеся взяти його з собою при відвідуванні місцевої адміністрації.

4. Особам, які бажають вступити до початкової, середньої, або старшої школи, а також технічного училища або вищого навчального закладу.

4.1. Особи, які бажають оформити дитину для навчання у школі в Японії. Для вступу у початкову, середню або старшу школу, зверніться до місцевої адміністрації. Для вступу до вищого навчального закладу або технічного училища, необхідно звернутися безпосередньо у вищий навчальний заклад або у технічне училище, до якого ви бажаєте вступити.

- Особам, які бажають вступити до початкової, середньої, або старшої школи, необхідно звернутися до місцевої адміністрації.

Для оформлення на навчання дітей у старшу школу, необхідно звернутися до адміністрації префектури, за місцем проживання. В обох випадках існує Комісія з освіти, так звана «Кйюіку Ійнкай», який може допомогти вам. Деякі адміністрації міст мають консультаційну службу для іноземців.

Плата за навчання у початковій, середній та старшій школі не стягується, крім плати за інші подтримй , наприклад, спеціальні уроки японської мови після вступу до початкової, середньої або старшої школи.

-Якщо ви хочете вступити до японського вищого навчального закладу – далі - (ВНЗ) або технічного училища, зверніться безпосередньо до ВНЗ або технічного училища, до якого ви бажаєте вступити. Деякі японські ВНЗ заявляють, що допомагатимуть вихідцям з України, які шукають захист у Японії та приймають на навчання.

Список вищих навчальних закладів знаходиться у наведеному нижче сайті.

Сайт: <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/other/news/000164.html>



*Щодо дитячих садків, то вони включені до послуг з догляду за дітьми у вищезгаданому пункті. У садок можна ходити безкоштовно у місцевості, де ви маєте реєстрацію при особистому зверненні до адміністрації міста, селища чи села.

4.2. Ми надсилаємо вам матеріали, які допоможуть вам вступити до початкової, середньої та старшої школи, технічного училища або ВНЗ у Японії.

(а) Довідник з навчання у школі (Guidebook for Starting School)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2016/06/24/1358299_01.pdf



(б) Іноземцям, які бажають навчатися у середній школі. (Легка японська мова)

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930006277.pdf>



(в) Пам'ятка по системі надання допомоги під час навчання у школі
*Допомагають оплачувати такі гроші, як зошити, олівці та шкільні обіди.

4.3. Якщо ви не знаєте, до якої адміністрації, ВНЗ або технічного училища звернутися, будь ласка, звертайтеся до Міністерства освіти, культури, спорту, науки та технологій Японії.

○Довідкова служба Міністерства освіти, культури, спорту, науки та технологій Японії

Номер телефону : 0120-082-434 Години роботи: з 9.30 до 18.15 (будні дні)

Адреса електронної пошти :

Сайт : https://www.mext.go.jp/ukraine_helpdesk.html



*Доступно японською та англійською мовами.

5. Якщо у вас виникатимуть проблеми в Японії, телефонуйте за наступним номером.

○Консультація по телефону (Довідкова службаFRESC)

Номер телефону : 0120-76-2029 (Безкоштовий)

Години роботи : з 9.00 до 20.00 (будні дні)

з 9.00 до 17.00 (субота, неділя, свята)

Сайт : https://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/ukraine_support.html

*Якщо у вас виникли запитання щодо цього листа, будь ласка, телефонуйте за номером довідкової служби FRESC.

6. Міграційна служба надсилатиме вам корисну інформацію електронною поштою.

Будь ласка, повідомте нам особисту адресу електронної пошти.

Будь ласка, повідомте нас, про відомості, які ви вважаєте, що міграційна служба повинна повідомити Посольство України в Токіо.

○Адреса електронної пошти :

В листі, який ви надішлете електронною поштою до міграційної служби напишіть:

(1) Ім'я, стать, дата народження, номер телефону та адресу електронної пошти.

(2) Чи можна передати всі дані, які перераховані в пункті (1) до Посольства України в Токіо та вашу адресу електронної пошти,

7. Ми надсилатимемо вам матеріали, які допоможуть вам у вашому житті в Японії. Будь ласка, читайте їх. Ми продовжуватимемо надсилати вам корисні матеріали.

(1) Hello Work допоможе вам знайти роботу.

(2) У разі хвороби або поранення ви повинні стати членом Національного медичного страхування.

(3) Ви можете отримати послуги по догляду за дитиною.

(4) Довідник з питань організації шкільних занять

(5) Для іноземців, які хочуть навчатися у старшій школі

(6) Система допомоги школярам

令和4年4月19日
しゅつにゆうこくざいりゆうかんりちよう
出入国在留管理庁

いのち あぶ 命が危ないためウクライナから日本にきた皆様へ

1 入管では、働ける在留資格「特定活動（1年）」への変更許可申請を受け付けています。「特定活動（1年）」に変更した人は、「在留カード」というIDカードをもらえます。これを持っていれば、日本で生活が便利になり、下の3の国民健康保険にも加入できますので、変更してください。変更したい人は下の5のF R E S Cヘルプデスクに電話してください。

2 就労を希望するウクライナの皆様へ
ハローワークでは、国の職員が、あなたが仕事を探すお手伝いをします。

お金はかかりません。

まずは、近くのハローワークに相談してみてください。

近くのハローワークが分からない人は、0800-919-2901（英語での相談ダイヤル）に電話をしてください。

※ハローワークでは、英語でも相談できます。

ただ、日本語が話せる家族か友達がいれば、なるべく一緒にきてください。

3 医療・介護・保育でお困りのウクライナの皆様へ
日本で医療を受けるときは、国民健康保険への加入が必要になります。国民健康保険に加入すれば、病気やけがで病院に行っても、医療費の20%か30%を払うだけですみます。

また、40歳以上の方については、介護保険に加入することとなり、介護を必要とする状態になった場合には、介護費の10%負担で介護サービスを受けることができます。

保育サービスも受けることができます。急な用事で短い時間子どもを預けたいとき、働くために、毎日長い時間子どもを預けたいとき、状況に応じたサービスがあります。

詳しいことはお住まいの市町村に聞いてください。

市町村に行くときは、日本語が話せる家族か友達がいれば、なるべく一緒にきてください。

4 小学校、中学校、高校、高等専門学校、大学に行きたいウクライナのみなさんへ

(1) 小学校、中学校、高校に行きたいときは、地元の役場に相談してください。大学や高等専門学校に行きたいときは、行きたい大学や高等専門学校に相談してください。

(ア) 日本の公立小学校、中学校、高校に行きたい方

日本の小学校、中学校、高校は、外国人の方も受け入れていてます。

小学校、中学校に行きたいときは、近くの市区町村の役場に相談してください。高校に行きたいときは、住んでいる都道府県の役場に相談してください。どちらも、教育委員会というところがあり、相談にのってくれます。役場の中には外国人相談窓口があるところもあります。

小学校、中学校、高校の授業料は無料です。授業料以外の勉強に必要なお金も支援される場合もあります。

小学校、中学校、高校に入ったあとの特別な日本語の授業など、外国人へのサポートがあることも多いので、相談してください。

(イ) 日本の大学や高等専門学校に行きたい方

日本の大学や高等専門学校に行きたいときは、行きたい大学や高等専門学校に聞いてください。

いくつかの日本の大学は、ウクライナから日本に来た人を助けると言っています。下のURLにそのような大学のリストがあります。

URL : <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/other/news/000164.html>

※幼稚園については、上の3の保育サービスに含まれ

ます。市区町村に住んでいることが分かれば無償で

利用できます。近くの市区町村の役場に行くと相談にのってくれます。



- (2) 日本で小学校、中学校、高校、高等専門学校、大学に行くための助けになる資料を送ります。

(ア) 就学ガイドブック (Guidebook for Starting School)

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afiedfile/2016/06/24/1358299_01.pdf



(イ) 高校で勉強したい外国人の皆さんへ

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930006277.pdf>



(ウ) 就学援助制度リーフレット

※ノートや鉛筆、給食などのお金を支援します。

- (3) 相談する役場、大学や高等専門学校が分からないときは、文部科学省に相談してください。

○文部科学省 ヘルプデスク

電話番号：0120-082-434

受付時間：午前9時30分から午後6時15分まで（平日）

メールアドレス：ukraine-helpdesk@mext.go.jp

URL：https://www.mext.go.jp/ukraine_helpdesk.html



※日本語、英語で対応しています。

- 5 日本で困ったときは、次のところに電話してください。

○困ったときの連絡先 (F R E S C ヘルプデスク)

電話番号：0120-76-2029 (フリーダイヤル)

受付時間：午前9時から午後8時まで（平日）

午前9時から午後5時まで（土・日・祝日）

URL：https://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/ukraine_support.html

※この手紙について質問があるときは、上の

F R E S C ヘルプデスクに電話してください。



6 入管からメールでみなさんに役立つ情報を届けます。みなさんのメールアドレスを知らせてください。

みなさんが入管に知らせた情報を、入管が東京にあるウクライナ大使館に知らせてもいいと思う人は、教えてください。

○メールアドレスを知らせるところ

メールアドレス：ukraine_support@i.moj.go.jp

メールに書くこと：

(1) 名前、性別、生年月日、電話番号、メールアドレス

(2) (1) のこと全部と、この手紙を送った住所を、東京にあるウクライナ大使館に教えてよいか

7 みなさんの日本での生活を助ける資料を送ります。読んでください。今後も役に立つ資料を送ります。

(1) ハローワークが仕事探しを手伝います

(2) 病気やケガに備え、国民健康保険への加入が必要です。

(3) 子育て支援のサービスを受けることができます

(4) 就学ガイドブック

(5) 高校で勉強したい外国人のみなさんへ

(6) 就学援助制度

Information for those who have fled to Japan from Ukraine

1 The ISA accepts applications to change the status of residence to “Designated Activity (One year)” with work permit. Persons who have changed their status to “Designated Activities (one year)” can receive an ID card called a “residence card.” Having this card makes life in Japan more convenient and enables enrollment in National Health Insurance as described in 3 below, so please change your status. If you would like to change your status, please call the Foreign Residents Support Center (FRESC) help desk mentioned in 5 below.

2 To Ukrainians who would like to work in Japan

At Hello Work (the Public Employment Security Office), government staff members can help you find a job.

This service is free of charge.

Please start by consulting with a nearby Hello Work office.

If you do not know where the nearest Hello Work office is, please dial 0800-919-2901 (phone number for consultation in English).

* Hello Work offices offer consultation in English as well.

However, hopefully you come to Hello Work together with your family or friends who can speak Japanese.

3 To Ukrainians who have problems related to medical care, long-term care, or childcare

To receive medical care in Japan, it is necessary to enroll in National Health Insurance. If you are enrolled in this insurance and you go to a hospital due to a sickness or injury, you only have to pay 20% or 30% of the associated medical care costs.

In addition, if you are 40 years of age or older, you will be enrolled in long-term care insurance, and—if you find yourself in need of long-term care—you will be able to receive long-term care services for only 10% of the total long-term care costs.

Childcare services are also available. There are various services available

depending on the situation, including when you want to entrust your child for a short time due to urgent business or when you want to entrust your child for several hours every day due to work.

For more details, contact the municipality where you live.

When you go to the municipal office, if you have a family member or friend who speaks Japanese, please come with them if possible.

4 To Ukrainians who want to go to an elementary school, junior high school, senior high school, college of technology, or university

(1) If you would like to go to an elementary school, junior high school, or senior high school, please consult with your local municipal office. If you would like to go to a university or college of technology, please consult with the university or college of technology you are interested in.

(A) If you would like to go to a public elementary school, junior high school, or senior high school in Japan

Japanese elementary schools, junior high schools, and senior high schools accept foreign nationals as well.

If you would like to go to an elementary school or junior high school, please consult with the nearby municipal office. If you would like to go to a senior high school, please consult with the municipal office of the prefecture where you live. Both have their own board of education, and they will consult with you. Some municipal offices also have their own foreign residents help desk.

Elementary schools, junior high schools, and senior high schools do not charge tuition fees. Support is also sometimes provided to cover the costs of studying other than tuition fees.

Assistance for foreign nationals—including special Japanese classes—is often available after entering an elementary school, junior high school, or senior high school, so please ask about this.

(B) If you would like to go to a university or college of technology in Japan

If you would like to go to a university or college of technology in Japan, please ask the university or college of technology you are

interested in. A number of Japanese universities have stated that they are willing to help Ukrainian students who have come to Japan. The link below includes the list of such universities.

URL: <https://www.studyinjapan.go.jp/ja/other/news/000164.html>

* Preschool is included in the childcare services mentioned in 3 above. Preschool is available free of charge if it is clear that you live in the corresponding municipality. If you go to the nearby municipal office, they will discuss this with you.



(2) Materials that are useful for going to an elementary school, junior high school, senior high school, college of technology, or university in Japan will be sent to you.

(A) Guidebook for Starting School

https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/icsFiles/afieldfile/2016/06/24/1358299_01.pdf



(B) For foreign nationals who want to study at senior high schools

<https://www.moj.go.jp/isa/content/930006277>



(C) Financial support system leaflet

* Financial assistance is provided to cover the costs of notebooks, pencils, school lunch, etc.

(3) If you do not know how to consult with the municipal office, university, or college of technology, please consult with the Ministry of Education,

Culture, Sports, Science and Technology (MEXT).

o MEXT help desk

Phone number: 0120-082-434

Reception hours: 9:30 am to 6:15 pm (on weekdays)

Email address: ukraine-helpdesk@mext.go.jp

URL: https://www.mext.go.jp/ukraine_helpdesk.html



* Service is available in both Japanese and English.

5 If you have any problems while in Japan, please call the number below.

o Contact information for problems (FRESC help desk)

Phone number: 0120-76-2029 (toll-free number)

Reception hours: 9:00 am to 8:00 pm (on weekdays)

9:00 am to 5:00 pm (on weekends and holidays)

URL: https://www.moj.go.jp/isa/support/fresc/ukraine_support.html



* If you have any questions about this letter, please call the FRESC help desk above.

6 The ISA sends helpful information to everyone via email. Therefore, please tell us your email address.

Also tell us if it is okay for the ISA to notify the Embassy of Ukraine in Tokyo of the information that you give the ISA.

o Send your email address to

Email address: ukraine_support@i.moj.go.jp

What to write in the email:

- (1) Your name, gender, date of birth, phone number, and email address
- (2) Whether it is okay for us to send the information in (1) as well as the address to which this letter was sent to the Embassy of Ukraine in Tokyo

7 Materials that can help with life in Japan will be sent to you. Please read them. We are committed to sending useful materials.

(1) Hello Work offices help you search for work.

(2) To prepare for sicknesses and injuries, it is necessary to enroll in National Health Insurance.

(3) Childcare support services are available.

(4) Guidebook for Starting School

(5) For foreign nationals who want to study at senior high schools

(6) Financial support system for school expenses

Евакуйованим з України, які шукають роботу в Японії

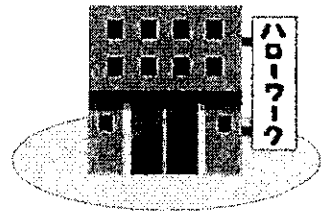
Hello Work допомагає знайти роботу

Hello Work — це Державний центр зайнятості,
який допомагає вам у пошуку роботи.
Усі послуги надаються безкоштовно.

Hello Work пропонує перелічені нижче послуги безкоштовно.

- 1 Консультація з питань професійної орієнтації
- 2 Підтримка у пошуку бажаної роботи
- 3 Сприяння у працевлаштуванні

У нашому офісі ви можете поговорити з консультантом англійською, але якщо хтось із вашої родини чи друзів розмовляє японською, ми рекомендуємо вам прийти з ним.



Консультація по електронній пошті

kourou-esb_ukr@mhlw.go.jp



Телефонна консультація
Hello Work англійською мовою

☎ номер телефону :
0800-919-2901

ウクライナ

にほん ひなんちゅう しごと さが
から日本に避難中で仕事を探しているひとしごと さが てつだ
ハローワークが仕事探しを手伝いますハローワークは、国の職員が、あなたが仕事を探す
てつだ お手伝いをするところです。お金^{かね}はかかりません。ハローワークでは、次のサービスを、すべて無料^{むりょう}で受けることができます。

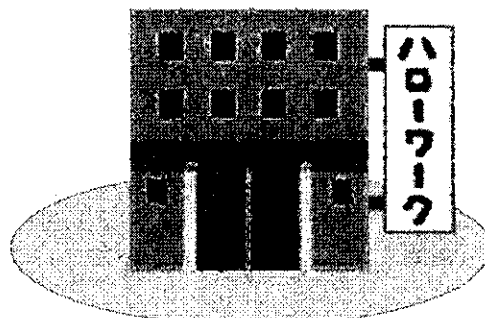
1

きぼう しごと そうだん
希望する仕事の相談

2

はたら かいしゃ さが
働きたい会社を探す

3

はたら かいしゃ しょうかい
働きたい会社への紹介ハローワークでは、英語^{えいご}でも相談^{そうだん}できますが、日本語^{にほんご}が
はな かぞく ともだち いっしょ
話せる家族か友達がいれば、なるべく一緒にきてください。そうだん
メールで相談する

kourou-esb_ukr@mhlw.go.jp

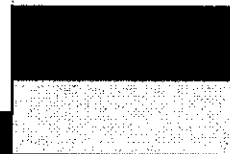
えいご でんわそうだん
英語でハローワークに電話相談する

☎ : 0800-919-2901

For Ukrainian evacuees
for job in Japan



who are searching



Hello Work helps you find job

“Hello Work” is the governmental agency to help you find a new job. **Its service is free.**

You can use the following services all free of charge at Hello Work.

1

Job seeking

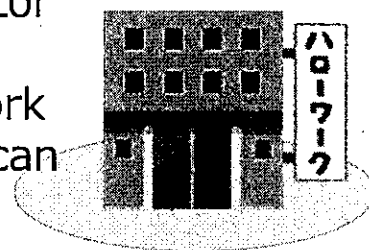
2

To find job vacancies

3

To introduce you to a company

You can consult in English using a translator device or an interpreter at Hello Work. However, hopefully you come to Hello Work together with your family or friends who can speak Japanese.



Email consultation

kourou-esb_ukr@mhlw.go.jp



**Phone consultation with
Hello Work in English**

**phone :
0800-919-2901**



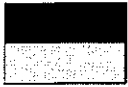
MHLW

厚生労働省
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

Hello Work

Exhibiting the national flag :

Ministry of Foreign Affairs of Japan Website



Евакуйованим з України,
які хочуть отримати медичну допомогу в Японії



Вам потрібно оформити Національне медичне страхування на випадок хвороби або травми

Просимо вас оформити Національне медичне страхування, щоб ви могли спокійно отримувати медичну допомогу, якщо ви захворієте або отримаєте травму.

Вам необхідно оформити Національне медичне страхування після реєстрації мешканців у вашому муніципалітеті.

Доступні послуги

- ☐ Якщо ви захворіли або отримали травму та хочете звернутися до лікаря, будь ласка, пред'явіть своє посвідчення застрахованої особи на стійці лікарні.
- ☐ Ви можете отримати медичну допомогу при хворобах чи травмах, лише заплативши 30% медичних витрат.

* А для дітей до 6 років оплачують 20% медичних витрат.

* Особи, яким виповнилося 40 років, повинні також оформити Страхування довгострокового догляду. Якщо вам буде потрібен довгостроковий догляд, ви можете отримати ці послуги, лише сплативши 10% вартості наданих послуг.

* Особи, яким виповнилося 75 років, повинні бути зараховані до Системи медичної допомоги для людей похилого віку.

- Будь ласка, сплачуйте страховий внесок до кінцевого терміну, зазначеного у повідомленні, надісланому муніципалітетом.
- За деталями зверніться до свого муніципалітету, де ви живете.
- Якщо хтось із вашої родини чи друзів розмовляє японською, приходьте до нас разом з ним у міру можливості.

Джерело зображення Державного прапора України:

Офіційний сайт Міністерства закордонних справ Японії



ウクライナ

にほん ひなんちゅう いりょう う
から日本に避難中で医療を受けるひと

びょうき そな こくみんけんこうほけん かにゅう ひつよう
病気やケガに備え、国民健康保険への加入が必要です。

びょうき あんしん いりょう う
 病気やケガをしたときに、安心して医療を受けられる
 こくみんけんこうほけん かにゅう
 ようにするため、国民健康保険に加入してください。

す しちょうそん じゅうみんとうろく こくみんけんこうほけん かにゅう
 お住まいの市町村で、住民登録をしたら、国民健康保険に加入する
 ひつよう
 必要があります。

う 受けられるサービス

びょうき いしゃ びょういん まどぐち
☐ 病気やケガでお医者さんにかかるときは、病院の窓口で
 ひほけんしゃしょう
 「被保険者証」を見せてください。

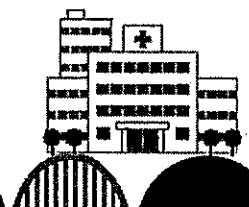
いりょうひ わり しは びょうき み
☐ 医療費の3割を支払うだけで病気やケガを診てくれます。

※ さいみまん こ わり しはら
 ※ 6歳未満のお子さんは2割を支払います。

さいいじょう かた かいごほけん かにゅう かいご ひつよう
 ※ 40歳以上の方は介護保険にも加入することとなり、介護が必要となれば、
 かいごひ わり しはら かいご う
 介護費の1割を支払うだけで、介護サービスを受けることができます。

さいいじょう かた こうきこうれいしゃいりょうせいど かにゅう
 ※ 75歳以上の方は後期高齢者医療制度に加入することとなります。

- しちょうそん とど し きげん ほけんりょう はら
 市町村から届くお知らせの期限までに保険料を払ってください。
- くわ す しちょうそん き
 ➤ 詳しいことは、あなたが住んでいる市町村に聞いてください。
- はな かぞく ともだち いっしょ
 ➤ 日本語を話せる家族か友達がいれば、なるべく一緒にきてください。



For those who are evacuated from Ukraine  to Japan 
and wish to receive medical care

You need to get enrolled in the National Health Insurance in case of illness or injury

Please get enrolled in the National Health Insurance to ensure that you can receive medical care in case of illness or injury at ease.

You need to get enrolled in the National Health Insurance after registering as a resident in your municipality.

Accessible benefits

- ☐ Please show your insurance card at a hospital counter when you see a doctor for illness or injury
- ☐ You only pay 30% of your medical expenses and they will take care of your illness or injury

※ You pay 20% of the expenses if an insured is a preschool infant under 6 years old

※ Those aged 40 years or older are also covered by the Long-Term Care Insurance. If needed, they can receive long-term care services by paying only 10% of the long-term care expenses.

※ Those aged 75 years or older need to get enrolled in the Medical Care System for the Elderly aged 75 and over.

- Please pay premiums by the deadline of the notice you receive from your municipality.
- Please ask the municipal office for more details.
- If you have a family member or a friend who can speak Japanese, please come with him/her as much as possible.



Евакуйованим з України,
які виховують маленьких дітей в Японії

Надаються послуги з підтримки у вихованні дітей

В Японії надаються нижченаведені послуги з підтримки у вихованні дітей. Спосіб використання послуг залежить від регіону, тому за деталями зверніться до муніципалітету, де ви живете.

Тимчасове утримання дитини

Ви можете отримати допомогу на тимчасове утримання дитини вдень.

Ясла

Це заклад, в якому здійснюється догляд і виховання дітей вдень, коли батькам доводиться залишати дитину надовго через свою роботу.

Місцевий центр соціальної підтримки дітей

Це місце, яке надає дітям та їхнім батькам простір для гри та спілкування. Тут також можна проконсультуватися з питань виховання дітей.

Заходи з сервісної підтримки користувачів

У рамках цих заходів надається інформація про послуги, пов'язані з вихованням дітей.

Дитячий садок

Це школа для дітей віком від 3 до 5 років.

Допомога на дитину

Виплачується готівкою тим, хто має дітей.

ウクライナ

にほん ひなんちゅう ちい こ そだ
から日本に避難中で小さなお子さんを育てているひとこそだ しえん う
子育て支援のサービスを受けることができますにほん つぎこそだて しえん ていきょう
日本では、次のような子育て支援のサービスを提供
しています。ちいき りようほうほう こと
地域によって利用方法などが異なりますので、
くわ す しちょうそん き
詳しいことはお住まいの市町村にお聞きください。いちじあず
一時預かりひるま いちじてき こ あずか
昼間に一時的に子どもを預かってもらえます。ほいくしょ
保育所しごと ちょうじかん こ あず
仕事について長時間子どもを預けなければな
らなくなった時に、ひるま こ あず
とき ひるま こ あず
とができる施設です。ちいきこそだ しえんきよてん
地域子育て支援拠点こ ほごしゃ いっしょ
お子さんと保護者が一緒にすごすことができ
ばしょこそだ そうだん
場所です。子育てについて相談もできます。りようやしえんじぎょう
利用者支援事業こそだ かん あんない
子育てに関するサービスを案内しています。ようちえん
幼稚園さい さい こ む がっこう
3歳から5歳までのお子さん向けの学校です。じどうてあて
児童手当こ かた げんきん しきゅう
お子さんのある方に現金が支給されます。

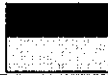
MHLW

厚生労働省

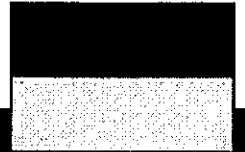
Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

国旗の出典：外務省ホームページ

From Ukraine



Parents and children evacuating to Japan



You can use the child-rearing support service

In Japan, we provide the child-rearing support service listed below.

How to use it depends on the area you live in.

Please contact the municipality for details.

Short-term Childcare

Service to temporarily care for children during the day.

Nursery school

When you get a job, the nursery school will care for your child while you work.

Community-based childrearing support center

A place where parents and children can interact with each other. You can also consult about child-rearing.

User support

We provide information on child-rearing services.

Kindergarten

School for children from 3 to 5 years old

Children's allowance

We will provide cash to parents who have children.

英語版

就学ガイドブック

Guidebook for Starting School

日本の学校への入学手続き

Procedures for Entering Japanese Schools

2015 年 4 月

April, 2015

文部科学省

Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology

目 次

- 1 . 我が国の学校教育について 3
- 2 . 就学手続きについて 15
- 3 . 学校生活について 23
- 4 . 教育相談について 35

Table of Contents

1. About the School Education of Japan . . .	4
2. Procedures for Starting School	16
3. About School Life	24
4. About Educational Counseling	36

1. 我が国の学校教育について

① 学校教育制度

(1) 学校教育制度

●日本の学校系統図

(5ページ参照)

●就学前教育について

満3歳から小学校就学までの幼児を対象とし、幼稚園で行われています。

●義務教育について

義務教育は、満6歳～満15歳までの9年間、小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）及び特別支援学校（小学部・中学部）で行われています。

●初等中等教育について

小学校は、満6歳を過ぎた最初の4月から入学することができ、6年間の教育を受けます。小学校を卒業すると中学校に入学することができ、3年間の教育を受けます。

高等学校は、小学校及び中学校における義務教育を修了した人を対象に普通教育及び専門教育を行っており、通常3年間の教育を受けます。

小学校を修了した人を対象に、6年間で義務教育（前期課程）と専門教育（後期課程）を一貫して行う中等教育学校もあります。

障害のある子供のために、特別支援学校（小学部・中学部・高等部）が設けられています。また、小学校・中学校において、特別支援学級や、主に通常の学級で授業を受けながら障害に応じた取り出し指導を受ける通級指導教室において教育を行う場合もあります。いずれの場合でも、児童生徒一人一人の障害の状態に応じたきめ細かな教育が行われています。

1. About the School Education of Japan

① The School Education System

(1) The School Education System

●The Japanese Education System Chart

(See page 6)

●Education before Starting School

Before starting school, children from age 3 till they reach school age can receive education in kindergartens.

●Compulsory Education

Compulsory education at elementary schools, junior high schools, secondary schools (former curriculum) and schools for special needs education (elementary department and junior high school department) is for children aged 6 to 15 for a total of 9 years.

●Elementary and Secondary Education

Children enter elementary school (shougakkou) in the April following their 6th birthday and study there for 6 years. After graduating from elementary school they enter junior high school (chuugakkou) for an additional 3 years of education.

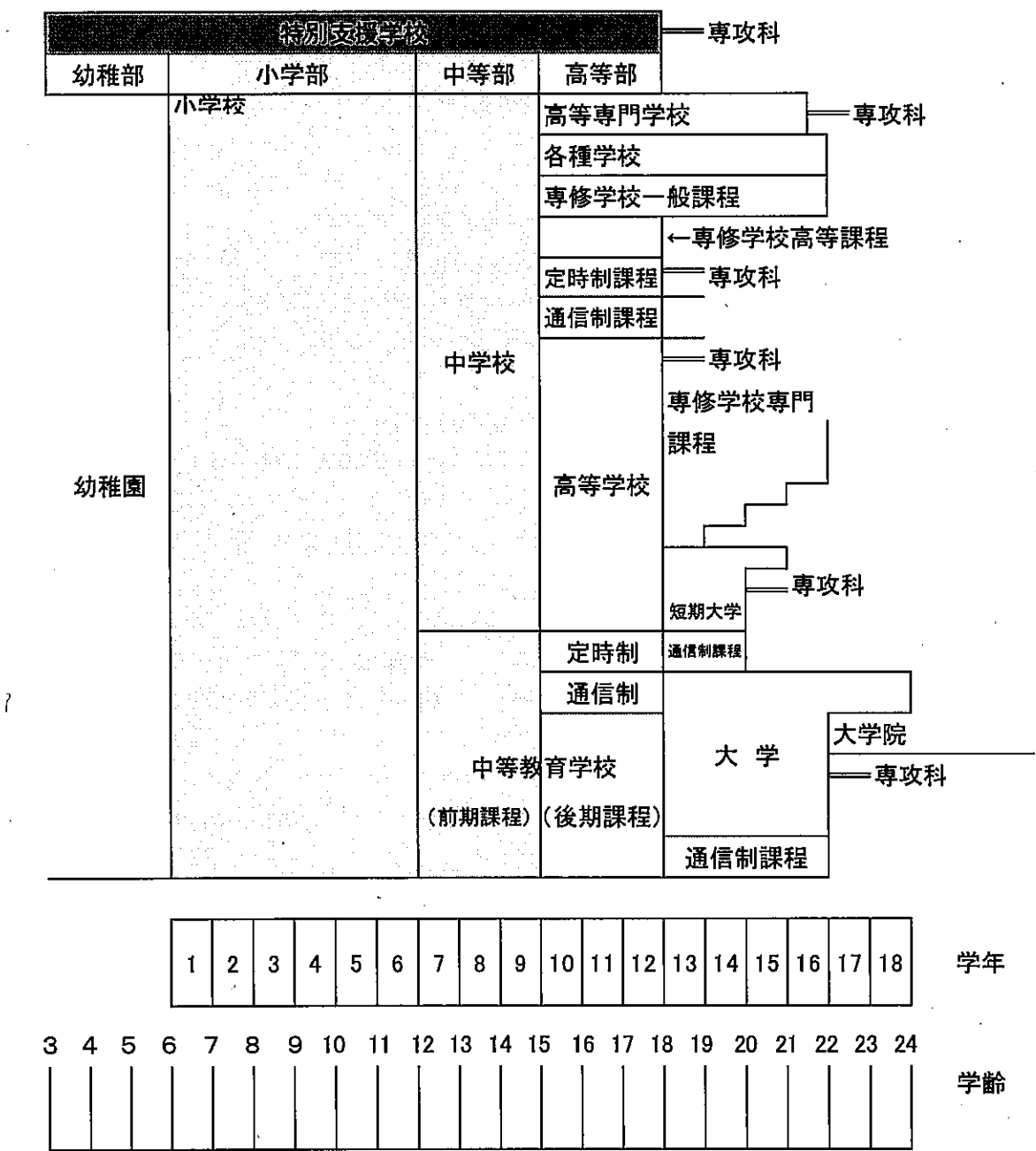
Senior high school is for children who have completed the elementary and junior high school compulsory education, where regular and vocational education is offered, it is normally completed in 3 years.

There are also secondary schools for children who have graduated from elementary school, where for a continuous 6 years the remaining compulsory education (junior high school, former curriculum) and the proceeding vocational education (senior high school, latter curriculum) is offered.

For children with disabilities, there are schools for special needs education (elementary department, junior high school department and senior high school department). There are also elementary and junior high schools with special classes for children with special needs or resource rooms where disabled children receive classes when needed depending on their disability while mainly attending classes with normal children. Whichever the case may be, each child is provided with a specially detailed education suited for their disabilities.

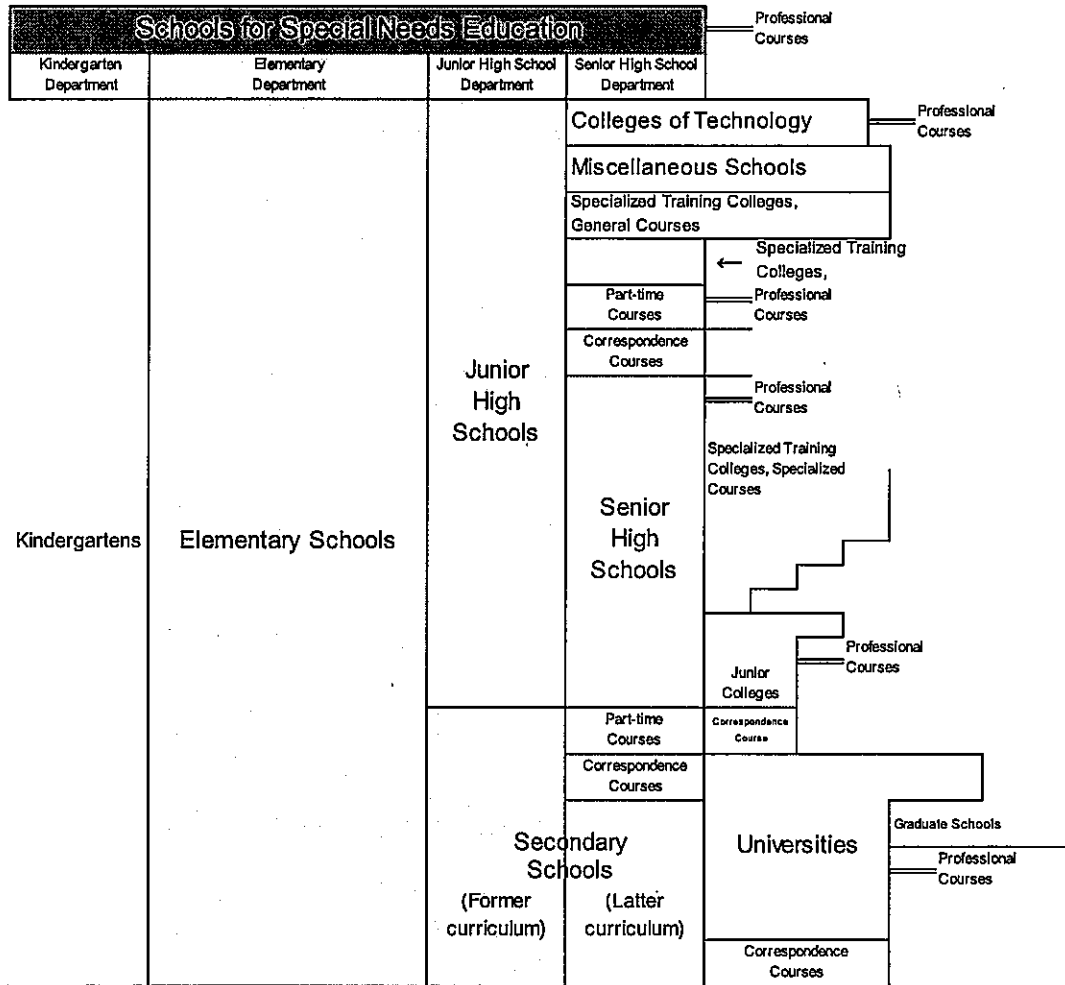
日本の学校系統図

就学前教育	初等教育	中等教育	高等教育
-------	------	------	------



The School Education System

Pre-school Education	Elementary Education	Secondary Education	Higher Education
----------------------	----------------------	---------------------	------------------



1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----

School Year

3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

Age

●高等教育について

高等教育は、主として大学と短期大学で行われています。これらは、高度で専門的な教育を行う機関で、通常、大学の修業年数は4年、短期大学は2年です。さらに高度な高等教育を行う機関として大学院（2年ないし5年）があります。

なお、この他に職業等に必要な能力を育成する機関として専門学校（主に2年）があります。

(2) 教育内容

●教育課程(カリキュラム)

学校でどのようなことを学ぶかは、文部科学省が作成する学習指導要領に従って各学校が定めています。

なお、授業は通常日本語で行われます。

●教科について

①小学校及び中学校

小学校では、国語、社会、算数、理科、生活、音楽、図画工作、家庭及び体育の各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動について学習します。

中学校では、国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術・家庭及び外国語の各教科、道徳、総合的な学習の時間及び特別活動について学習します。外国語は原則として、英語を学びます。

②高等学校

高等学校では、国語、地理歴史、公民、数学、理科、保健体育、芸術、外国語、家庭、情報の各教科、総合的な学習の時間及び特別活動について学習します。また、専攻科を置く高等学校においては、各学校の特色に応じた教科をあわせて学習します。

●Higher Education

Higher education is provided mainly through universities (daigaku) and junior colleges (tandai). These institutions offer higher level, specialized education. University education usually lasts for four years while education in junior colleges is for two years. And there are graduate schools (daigakuin) (2 to 5 years) that offer a much higher level of education.

There are vocational colleges (senmon gakkou) (usually for 2 years) that train students in the skills and knowledge necessary for specific occupations.

(2)Educational Content

●Curriculum

While following the Course of Study established by the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, what the students study in school is determined by each school.

Class lessons are normally conducted in Japanese.

●School Subjects

① Elementary and Junior High Schools

In elementary school, students study the subjects Japanese (kokugo), social studies (shakai), arithmetic (sansuu), science (rika), life studies (seikatsu), music (ongaku), drawing and crafts (zuga kousaku), home economics (katei) and physical education (taiiku), moral education (doutoku), foreign language activities, integrated studies and special activities are also taught.

In junior high school, students study the subjects Japanese (kokugo), social studies (shakai), mathematics (suugaku), science (rika), music (ongaku), art (bijutsu), physical education (taiiku), technical arts and home economics (gijutsu katei) and foreign languages (gaikokugo), they also study moral education, integrated studies and special activities. In foreign languages, English is usually taught.

②Senior High Schools

In senior high school, the students study the subjects Japanese (kokugo), geography and history (chiri rekishi), civics (koumin), mathematics (suugaku), science (rika), health and physical education (hoken taiiku), technical arts (gijutsu), foreign languages (gaikokugo), home economics (katei), and information technology (jouhou). Senior high schools that have specialized subjects teach subjects that conform to their speciality.

③特別支援学校

特別支援学校では、幼稚園、小学校、中学校、高等学校に準ずる教育を行うとともに、「自立活動」という障害による学習上または生活上の困難を改善・克服するための特別の指導領域があります。また、子供の障害の状態等に応じた弾力的な教育課程が編成できるようになっています。

●教科書について

学習に使用する教科書は、小学校、中学校、中等教育学校（前期課程）、特別支援学校の小学部及び中学部の児童生徒に対して、新学年になるたびに国から無償で一人一人に給与されます。

なお、高等学校、中等教育学校（後期課程）については、国から無償給与はされません。特別支援学校の高等部については、都道府県教育委員会から購入費用の全額補助が受けられます。

※学校で使用する補助教材などは、購入費用を支払わなければなりません。

●進級・進学について

日本では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校に在籍中は飛び級の制度はなく、入学（編入学）した学年から順次、上級学年の学習へと進んでいきます。義務教育修了後、高等学校に進学する際は、通常は入学選抜試験を受けることになります。

●就学援助について

公立の小学校、中学校、特別支援学校（小学部・中学部）、中等教育学校（前期課程）の授業料は無償です。

経済的理由により、公立の小学校、中学校への就学が困難であると市教育委員会（地域によっては区教育委員会）又は町村教育委員会（以下、「市区町村教育委員会」という。）から認められた場合、学用品の購入費や学校給食費等必要な援助が受けられます。

詳しくは、お住まいの市区町村教育委員会にお問い合わせください。

③ Schools for Special Needs Education

In schools for special needs education, aside from education conforming to kindergarten, elementary, junior high school and senior high school education, a special guidance course to improve and overcome the difficulties of having a disability called [self-reliance activities (jiritsu katsudou)] is taught. A flexible educational curriculum can also be made to suit the condition of the disability of the child.

● Textbooks

Textbooks used in elementary, junior high schools, secondary schools (former curriculum) and the elementary and junior high school departments of schools for special needs education are given to each student free of charge at the start of each school year.

However, textbooks are not free for senior high school students and secondary school (latter curriculum) students. The senior high school department of schools for special needs education can receive subsidies from prefectural boards of education.

※The amount spent to buy additional learning materials that are used in school has to be paid.

● Grade level promotion and moving from one school level to the next

In Japan, there is no system for skipping grades for students in elementary, junior high schools, senior high schools and schools for special needs education. A student advances from one grade to the next. After completing their compulsory education, in order to get into a senior high school, students are usually required to pass an entrance examination.

● Financial Assistance

Tuition fees for public elementary, junior high schools, schools for special needs education (elementary and junior high school departments) and secondary schools (former curriculum) are free.

If due of financial reasons it is difficult to enter the public elementary or junior high school and the board of education of the city (ward in some areas), town or village (hereinafter these are referred to as municipal boards of education) officially recognizes this, financial assistance can be received for school supplies and school lunches.

Please contact your local municipal board of education for details.

●高校段階での経済的支援について

国公立を問わず、授業料にあてるための高等学校等就学支援金を受給できます（受給要件あり）。また、私立高校等に通う場合、所得に応じて支給額が加算されます。返済の必要はありません。学校から申請用紙が配付されます。

なお、各都道府県では、低所得世帯に対する、授業料以外の教育費（教科書費、教材費、学用品費など）を支援するための返済不要の高校生等奨学給付金のほか、奨学金事業などを行っておりますので、お住まいの都道府県の高校担当にお問い合わせください。

●Financial Assistance for Senior High School

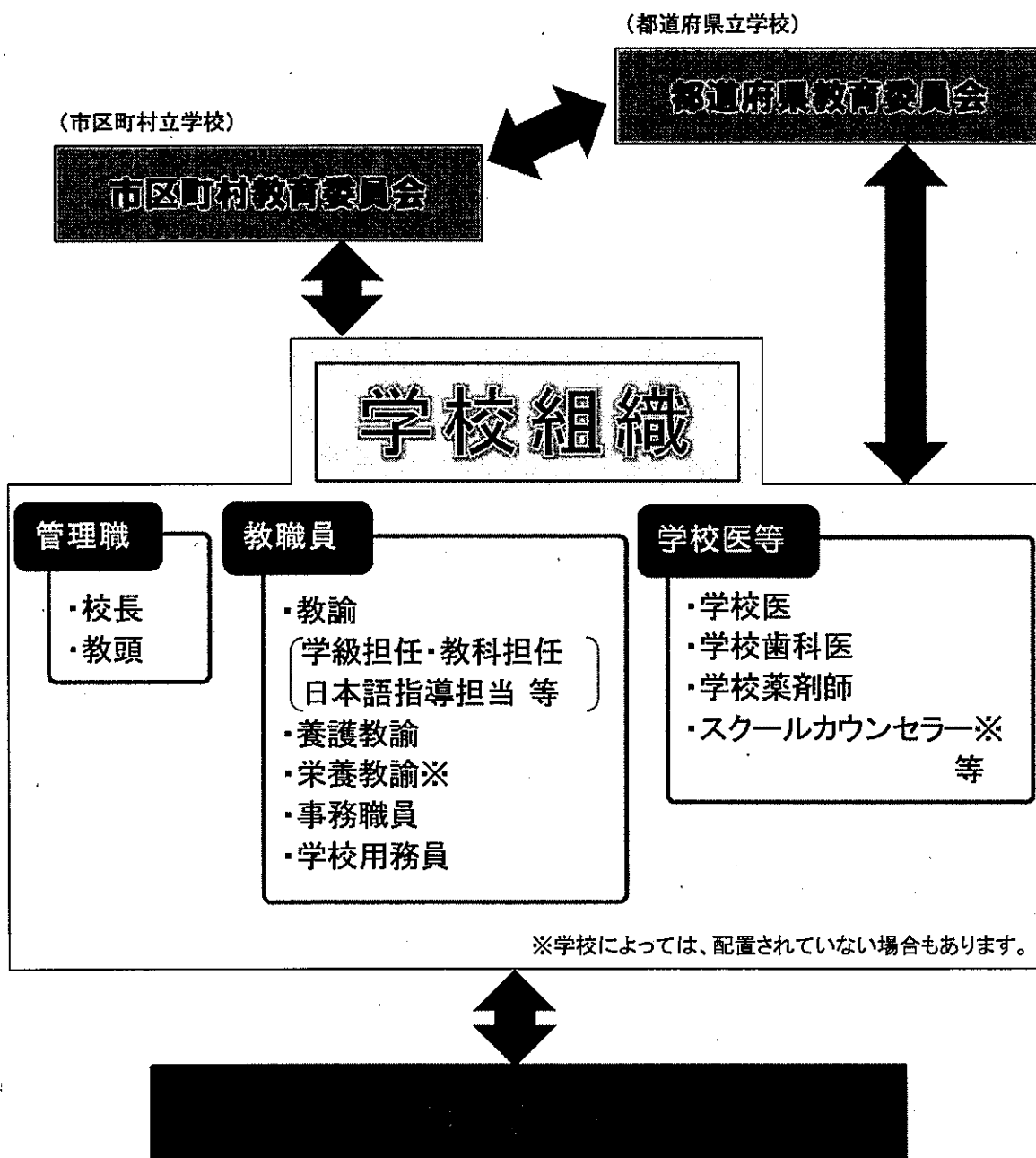
Regardless of the school being a public or a private one, school aid for senior high school tuition is available (there are conditions for qualifying). If attending a private senior high school, the amount that can be received will depend on the income of the family. Repayment is not required. Application forms are available at the schools.

For families with low income, each prefecture also has scholarship projects aside from the scholarship benefits given to senior high school students for other school expenses (expenses to buy text books, learning materials, school supplies, etc.) besides the tuition fee which does not need repayment, contact the person in charge of senior high schools at your local municipal office.

② 学校組織

公立の小学校・中学校は市区町村教育委員会が設置しています。公立の高等学校・特別支援学校は都道府県教育委員会が設置していますが、市区町村教育委員会が設置している場合もあります。

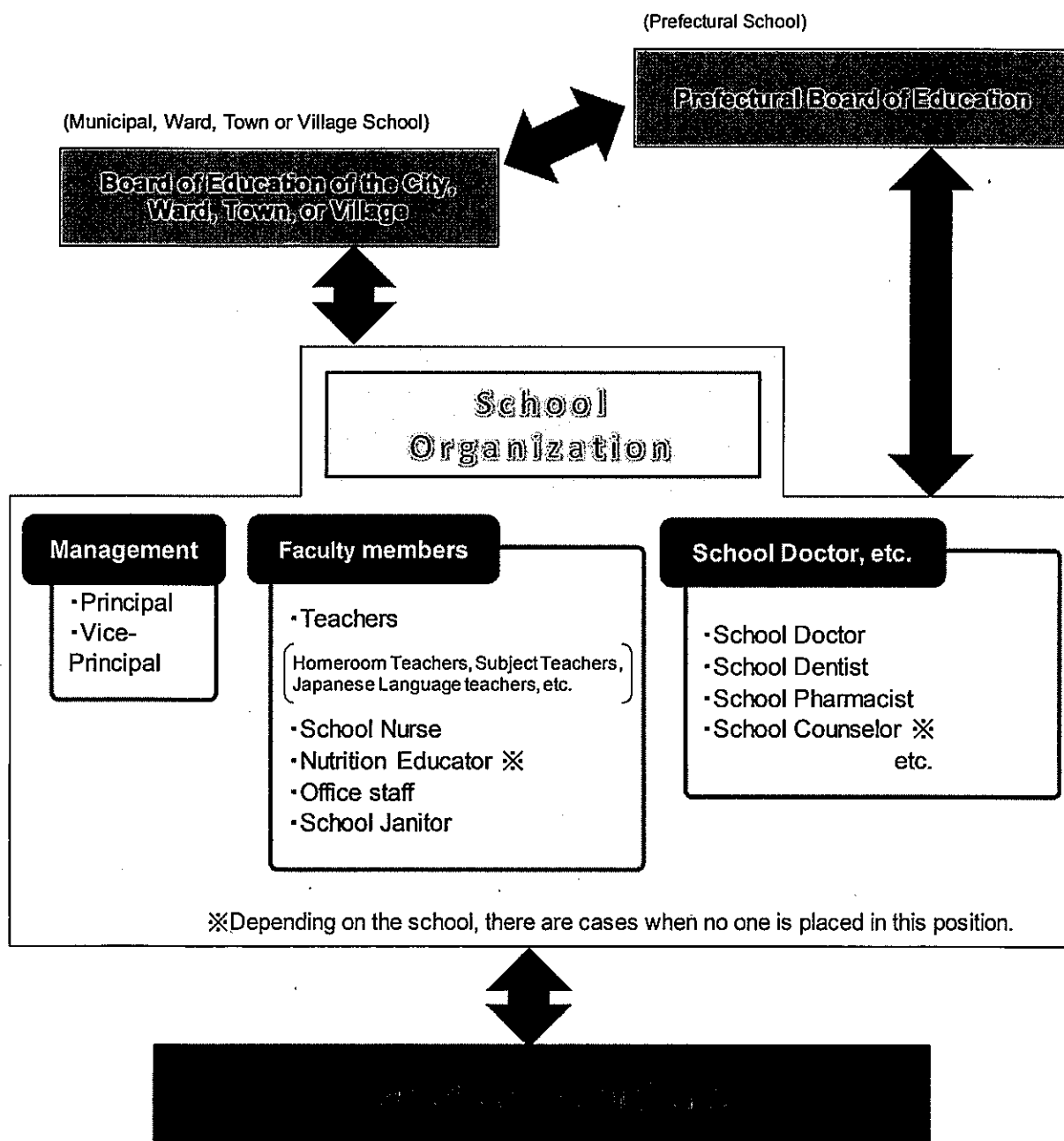
ほとんどの学校の組織は、下記の図のようになっています。



② The School Organization

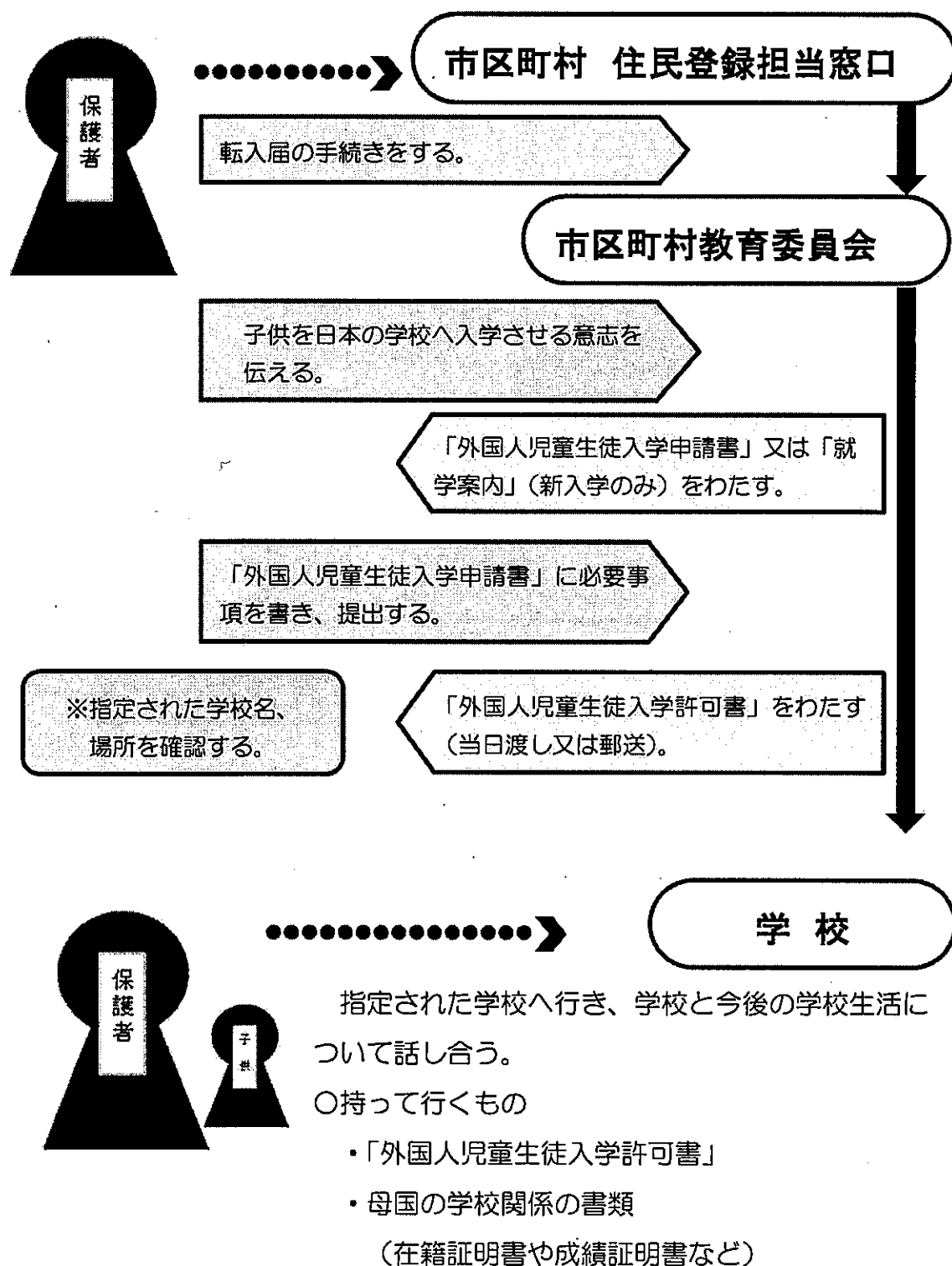
The public elementary and junior high schools are established by the Municipal Board of Education. The public senior high schools and schools for special needs education are established by the Prefectural Board of Education but there are cases where the Municipal Board of Education establishes them.

The organizational set-up of almost each school is as shown in the diagram below.



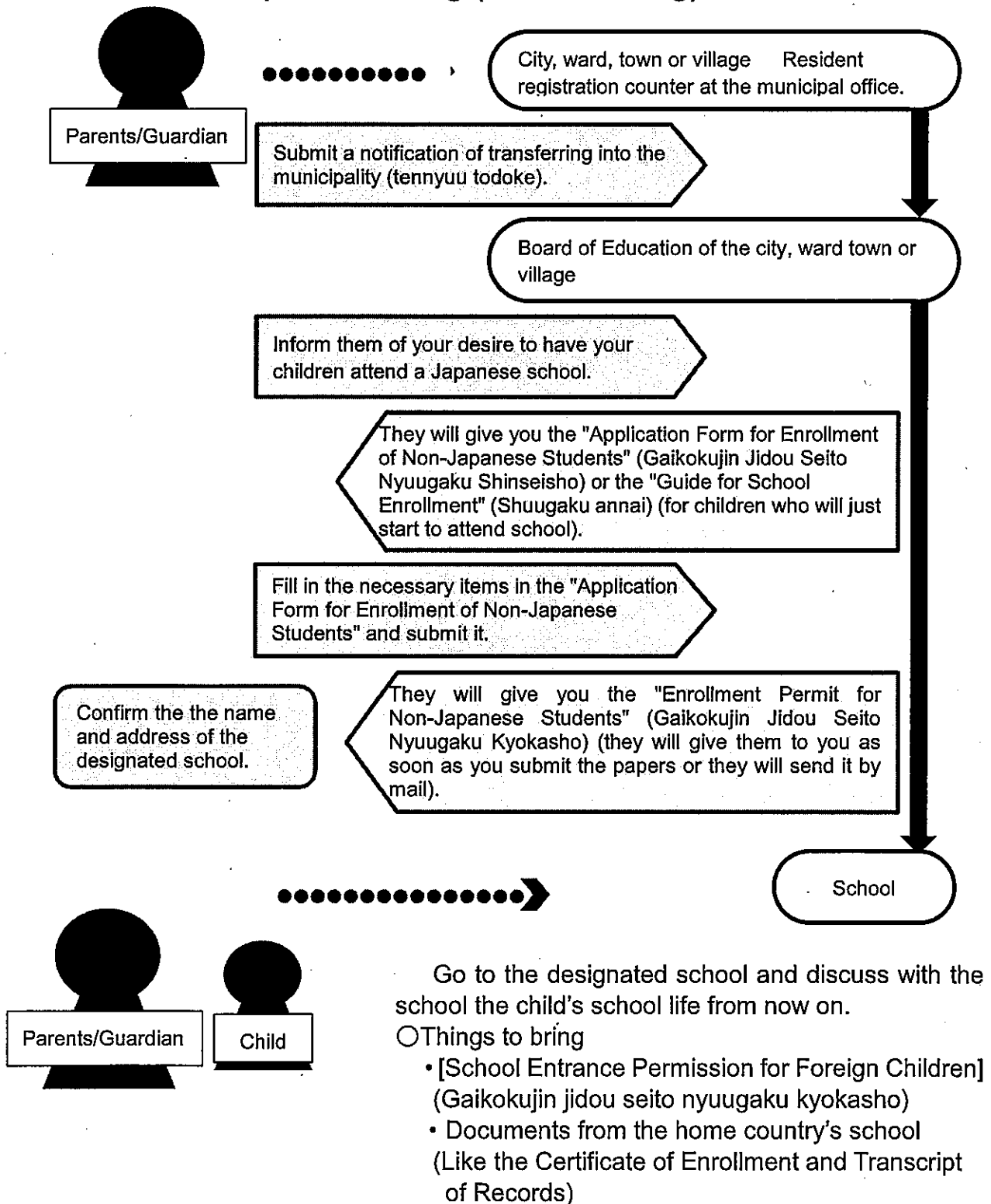
2. 就学手続きについて (小学校・中学校)

① 入学(編入学)の手続きの流れ



2. Procedures for Starting School (Elementary and Junior High Schools)

① Flow of steps for starting (or transferring) school



学校では、今後の学校生活を有意義なものにするために、次のようなことについて保護者と話し合います。

- ・児童生徒の名前と呼称
- ・性別
- ・生年月日
- ・来日年月日
- ・国籍
- ・現住所
- ・滞在期間
- ・滞在予定
- ・生育歴
- ・母国での学習歴
- ・母国での学年（就学年数）
- ・日本語学習歴
- ・病歴やアレルギーなど
- ・好きな教科
- ・得意なこと
- ・趣味・将来（進路）の希望

- ・家族構成（名前）
- ・連絡先及び方法（緊急時・勤務先・通訳等）
- ・登下校の方法
- ・家族の日本語学習歴
- ・通訳者等

外国人の子供が日本の学校教育を受ける場合、基本的には日本の子供と同じ教育を受けます。

日本の学校では、子供は年齢により学年が決められます（4月2日から翌年の4月1日までに生まれた子供は同じ学年になります）。したがって、編入した学年が、母国の学校の学年と一致しない場合があります。ただし、日本語能力が十分でない等の事情により、年齢相当の教育課程を受けることが適切でないと判断された場合は、一時的に下の学年に編入することもあります。

そのほか、市区町村によっては、日本語指導を十分に受けるために、指定された学校を別の学校に変えることができる場合があります。また、障害がある場合には特別支援学校や小学校・中学校にある特別支援学級に編入することができる場合もあります。

これらについては、市区町村教育委員会に相談してください。

At the school, the parents/guardians will be interviewed on the subjects listed below to help make the child's school life more successful.

- Students name and nickname
- Sex
- Birth date
- Date of arrival in Japan
- Nationality
- Current address
- Period of stay
- Planned stay
- Growing up history
- Educational history at home country
- School year at home country (number of years at school from the elementary level)
- Japanese language study history
- Medical history and allergies, etc.
- Favorite subjects
- Strong points
- Hobbies
- Aspirations for the future (course to take)

- Family structure (Name)
- Contact information and method (During emergencies, place of employment, interpretation, etc.)
- Way to go to and from the school
- Family's Japanese language study history
- Interpreter, etc.

When a child of a foreigner goes to a Japanese school, basically the child will receive the same education as a Japanese child gets.

In Japanese schools, a child's school grade is determined by the child's age (children born from April 2 to April 1 of the following year will belong to the same school grade). Consequently, the school grade admitted into might be different from the school grade in the mother country. However, if due to reasons like the child's Japanese ability is not enough, it was decided that it is not suitable for the child to be in the curriculum for his age, the child may be admitted to a lower school grade temporarily.

Aside from this, depending on the area, there may be cases when the designated school may be changed to a different one to enable the child to have enough Japanese language instruction. And if the child has a handicap, the child may be admitted to a school for special needs education or to an elementary or junior high school with special classes for children with special needs.

Please consult the local municipal board of education regarding these matters.

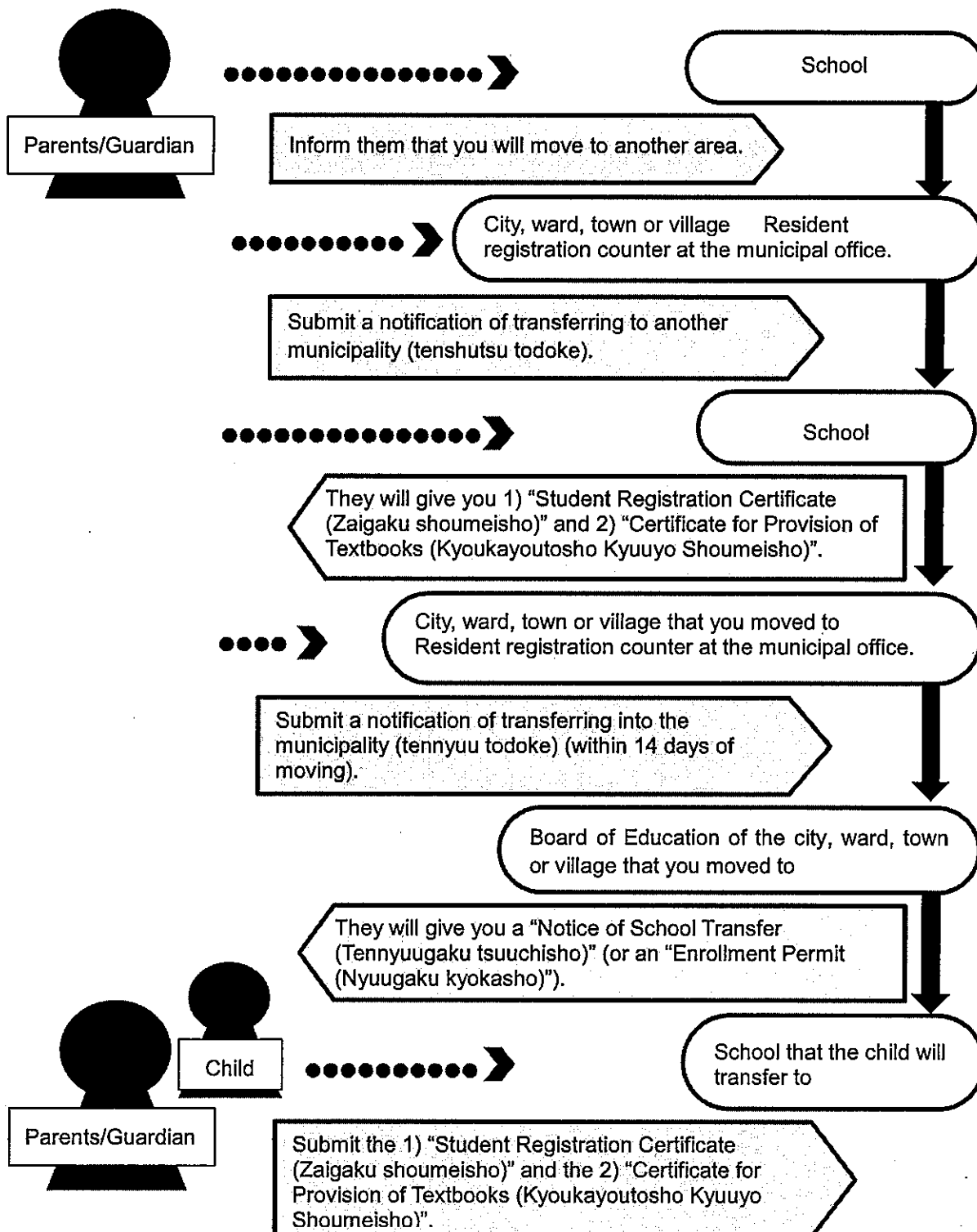
② 国内転学の手続き

日本国内での転居等により、就学すべき学校が変わる場合があります。その場合は次のような手続きが必要です。



② Procedures for changing schools within Japan

In cases where there is a need to change schools due to a change of residence within Japan or other reasons, it is necessary to do the following procedures.



※After this, the procedure is the same as for transferring to another school

◎日本の市区町村教育委員会や学校は、他の市区町村と連携して転学の手続きを行っています。

◎転学する場合は、必ず事前に、学校又は市区町村教育委員会に相談してください。

※ 帰国等の場合

帰国等により出国する場合については、必ず事前に、学校又は市区町村教育委員会に相談してください。

◎The municipal board of education and the school cooperates with other municipalities to process the transfer of schools.

◎When planning to transfer schools, please be sure to consult the current school or the municipal board of education beforehand.

※ In case of returning to home country, etc.

If you leave the country to return to your home country or for other reasons, please be sure to consult the school or the municipal board of education beforehand.

3. 学校生活について（小学校・中学校）

① 学校の1日

授業時間数は、曜日や学年によって異なります。土曜日、日曜日は原則休みです。

1 時限は、一般に小学校は45分、中学校は50分です。

小学校では、担任の先生が中心になって、ほとんどの教科を指導します。中学校では、教科ごとに先生が替わります。

◆給食の時間

多くの小学校及び中学校は、学校教育活動の一環として学校給食を実施しています。学校給食では、児童生徒が配膳や後かたづけをすることが一般的です。また、みんながそろって楽しく、栄養バランスのとれた食事をとることを通じて、正しい食事の在り方や好ましい人間関係を学び、生涯にわたって健康な生活を送れるよう、様々な工夫がなされています。

給食費は、保護者が負担することになっています。

※健康上、あるいは宗教上の理由により食べることができない食材等がある場合は、学級担任に相談してください。

◆清掃の時間

日本の学校では、自分たちの使う教室や校庭などを分担して、児童生徒が清掃します。

◆部活動

児童生徒のうち希望者は、放課後に、運動や文化的な活動を行うことができます。

3. About School Life

① A Day in School

The number of class hours varies depending on the day of the week and the grade. There are usually no classes on Saturdays and Sundays.

One class period is usually 45 minutes in elementary schools and 50 minutes in junior high schools.

In elementary schools, the class teacher teaches most of the regular subjects. In junior high schools, the teacher changes according to the subject.

◆Lunch Hour (Kyuushoku jikan)

In most of the elementary and junior high schools, school lunch is provided as part of the school's educational activities. For the students to set and clear the table afterwards is normal. Through eating a well-balanced meal while having fun together, the students learn the proper way of eating and having good relationships, different ways are devised to enable the students to have a healthy life all their lives.

The parents or guardians pay for the cost of the lunch.

※If due to health or religious reasons there are food that cannot be eaten, please consult the class or homeroom teacher.

◆Cleaning Hour (Souji jikan)

In Japanese schools, students share the responsibilities of cleaning the classrooms, school grounds, etc.

◆Club Activities (Bu katsudou)

Those who wish to do so can join athletic or cultural activities after school.

② 学校の1年

日本の学校は毎年4月に始まり、3月に終わります。

多くの学校は、1年間で2つないし3つの学期に分けています。

各学期の主な学校行事は次のとおりです（例は3学期制の場合です）。

学校行事の名称や内容、時期などは、地域や学校により異なります。

◆1学期 4月～7月

○始業式（4月）

学期の始まりの式です。2学期（9月）、3学期（1月）にもあります。

○入学式（4月）

1年生に入学する児童生徒の入学を祝う行事です。1年生の児童生徒の保護者も出席します。

○身体測定・定期健康診断（4～6月）

児童生徒の身長、体重などを測ったり、視力などを検査します。

児童生徒の健康状態を医者が検診します。

○修学旅行

主に最高学年において、学年全員で宿泊を伴う数日間の旅行をします。

○遠足・校外学習

校外に出かけ、体験活動や見学をします。

○授業参観・学級懇談会

保護者が学校へ行き、授業の様子や児童生徒の学校生活の様子をみます。

また、学校や家庭生活について、保護者と学級担任が情報交換をします。

○終業式（7月）

学期の終わりの式です。2学期（12月）にもあります。

◆夏休み(7月末～8月末)

約30～40日間の休みです（地域によって日数が違います）。

② A Year at School

Japanese schools start in April and end in March of the following year.

In most schools, the school year is divided into 2 to 3 terms.

The following is a list of the main school activities for each term. (The example below is a 3-term school).

The name of the activities, what they are about and when they are carried out vary depending on the region and school.

◆1st Term: April~July

○Opening Ceremony (Shigyou shiki) April

This is a ceremony to start the term. It is also done for the 2nd term (September) and the 3rd term (January).

○Entrance Ceremony (Nyuugaku shiki) April

An event to celebrate the entrance of 1st year students to the school. The parents or guardians of the 1st year students also attend the ceremony.

○Health Check (Shintai sokutei/Teiki kenkou shindan) April~June

The height, weight, etc. of the students are measured, the eyesight, etc are checked.

A doctor check the health of the students.

○School Trips (Shuugaku ryokou)

Usually for the highest grade level, everyone in the same grade goes on a trip for several days.

○School Excursions and Study Trips (Ensoku/Kougai gakushuu)

The students go on an out-of-school trip for experience gaining activities and to observe.

○ Class Observation/Parents-Teacher Class Meeting (Jugyou sankan/Gakyuu kondan kai)

The parents or guardians visit the school to see how their children are doing in class and in school.

And then the teachers and parents or guardians exchange information regarding the home and school life of the students.

○End of the Term Ceremony (Shuugyou shikiu) July

A ceremony to declare the end of the term. It is also done at the end of the 2nd term (December).

◆Summer Holiday (Natsu yasumi) End of July~End of August

Around 30~40 days vacation. (The number of days may vary depending on the region)

◆2学期 9月～12月

○始業式（9月）

○運動会・体育大会

短距離走やリレー、玉入れやダンスなどをしたり、学級の友達の応援をしながら、運動に親しむ行事です。

○音楽・演劇鑑賞会

優れた芸術を鑑賞したり、音楽を聴いたりして心を豊かにします。

○学芸会・文化祭

児童生徒が製作した作品やレポートなどの展示や、児童生徒が楽器の演奏や合唱、演劇等の発表をしたり、それらを鑑賞したりする会です。

○終業式（12月）

◆冬休み(12月末～1月初め)

約2週間の、比較的短い休みです（地域によって日数が違います）。

◆3学期 1月～3月

○始業式（1月）

○卒業式（3月）

最上級生の学校の卒業を祝う行事です。

○修了式（3月）

第3学期の終業式であるとともに、1年の締めくくりの式です。

◆春休み(3月末～4月初め)

この休みが終わると、進級または進学します。

◆**2nd Term: September~December**

○Opening Ceremony (Shigyou shiki) September

○Athletic Day (Undou kai/Taiiku taikai)

This is an event for students to enjoy exercising by doing activities such as short distance running, relays, ball games and dancing, and by cheering on their classmates

○Music and Drama Appreciation (Ongaku, Engeki kanshoukai)

This is meant to help students grow spiritually by experiencing fine drama and music.

○Student Performance and Cultural Festival (Gakugeikai, Bunkasai)

An event to view the work or reports made by the students that are in exhibit, and to watch the students perform musical instruments or sing in a chorus or perform a play.

○End of the Term Ceremony (Shuugyou shiki) December

◆**Winter Holiday (Fuyu yasumi) End of December~Beginning of January**

This is a relatively short holiday of about 2 weeks. (The number of days may vary depending on the region)

◆**3rd Term : January~March**

○Opening Ceremony (Shigyou shiki) January

○Graduation Ceremony (Sotsugyou shiki) March

An event to celebrate the graduation of the top grade level students.

○End of the Term Ceremony (Shuugyou shiki) March

This is a ceremony not only to declare the end of the 3rd term but also the end of the school year.

◆**Spring Holiday (Haru yasumi) End of March~Beginning of April)**

After this holiday is over the students go up to the next grade or will enter the next stage of education.

○国民の祝日○

国民の休日は、次のように定められ、この日は学校は休みになります。

- | | |
|----------------|---|
| 1月1日（元日） | 年の初めを祝う。 |
| 1月第2月曜日（成人の日） | おとな（二十歳）になったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます。 |
| 2月11日（建国記念の日） | 建国をしのび、国を愛する心を養う。 |
| 3月春分日（春分の日） | 自然をたたえ、生物をいつくしむ。 |
| 4月29日（昭和の日） | 激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす。 |
| 5月3日（憲法記念日） | 日本の国の憲法の施行を記念し、国の成長を願う。 |
| 5月4日（みどりの日） | 自然に親しむとともにその恩恵に感謝し、豊かな心をはぐくむ。 |
| 5月5日（こどもの日） | こどもの人格を重んじ、こどもの幸福をはかるとともに、母に感謝する。 |
| 7月第3月曜日（海の日） | 海の恩恵に感謝するとともに、海洋国日本の繁栄を願う。 |
| 8月11日（山の日） | 山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝する。
（平成28年から） |
| 9月第3月曜日（敬老の日） | 多年にわたり社会につくしてきた老人を敬愛し、長寿を祝います。 |
| 9月秋分日（秋分の日） | 祖先をうやまい、なくなった人をしのぶ。 |
| 10月第2月曜日（体育の日） | スポーツに楽しみ、健康な心身をつちかう。 |
| 11月3日（文化の日） | 自由と平和を愛し、文化をすすめる。 |
| 11月23日（勤労感謝の日） | 勤労をたっとび、生産を祝い、国民たがいに感謝しあう。 |
| 12月23日（天皇誕生日） | 天皇の誕生日を祝う。 |

○National Holidays○

The designated national holidays are as follows, national holidays are also school holidays.

January 1 (Ganjitsu) (New Year's Day)	This day celebrates the beginning of the new year.
2nd Monday of January (Seijin no hi) (Coming-of-Age Day)	This ceremony is to acknowledge the entry into adulthood of those turning 20. This celebration is to encourage them as they strive to live their lives.
February 11 (Kinkoku kinenbi) (National Foundation Day)	This is a day to remember the founding of the nation and foster a patriotic attitude towards Japan.
March Vernal Equinox (Shunbun no hi)	This is a day to praise nature and appreciate all living things.
April 29 (Showa no hi) (Showa Day)	A day to look back on the Showa era that went through a day-to-day upheaval but was able to make a recovery, and to spare a thought on the future of the country.
May 3 (Kempoukinenbi)	This day commemorates the implementation of the Japanese Constitution and expresses hope for the growth of the nation.
May 4 (Midori no hi) (Green Day)	This is a day to become familiar with nature in order to appreciate its benefits and to grow spiritually.
May 5 (Kodomo no hi) (Children's Day)	This is a day to appreciate children's personalities and wish for their happiness, as well as to show appreciation to mothers.
3 rd Monday of July (Umi no Hi) (Ocean Day)	This is a day to appreciate the benefits found in the sea and to wish for the prosperity of our ocean-bound country.
August 11 (Yama no hi) (Mountain Day)	This day is to give an opportunity to be familiar with the mountains and to give thanks for the benefits they provide. (Starting from the year 2016)
3 rd Monday of September (Keirou no hi) (Day of the Elderly)	This is a day to show respect to the elderly who have contributed to the society for many years and to celebrate their longevity.
September Autumnal Equinox (Shuubun no hi)	This is a day of respect for one's ancestors and to remember the dead.
2 nd Monday of October (Taiiku no hi) (Health and Sports Day)	This is a day for getting involved in sports and cultivating a healthy mind and body.
November 3 (Bunka no hi) (Culture Day)	This is a day to love freedom and peace, and to promote culture.
November 23 (Kinrou kansha no hi) (Labor Day)	This is a day to appreciate each other's labor and productivity.
December 23 (Tennou tanjoubi) (Emperor's Birthday)	This day is to celebrate the birthday of the Emperor.

③ 評価

児童生徒の成績や学校生活の様子については、学期末の通知表などにより学校から家庭に伝えられます。

④ きまり・規則

一人一人が健康で安全に楽しい生活が送れるように、学校にはいろいろなきまりがあります。

小学校では、多くの学校は服装や持ち物の規定はありませんが、体育の授業の時は、動きやすい運動着に着替えるのが一般的です。中学校では、それぞれの学校で服装を規定していることが多く、靴は、歩いたり運動しやすいものとされています。

校舎内では、多くの学校は上履きに履き替えています。

多くの学校では、マニキュアをしたり、ピアス等のアクセサリーを付けたりして登校することを禁じています。また、学校でおやつを買ったり、食べたりすることはできません。

⑤ 健康と安全

学校では、児童生徒の健康と安全に留意しています。

◆保健室

児童生徒が病気になったり、けがをしたりしたときなどは、保健室で救急処置をし、必要により病院や家庭に連絡をします。

また、保健室では健康管理や保健指導、健康相談なども行います。

③ Assessment

The school report cards on students' academic record and life at school are sent by the school to the students' families.

④ Rules and Regulations

Schools have various regulations so that every student can live a healthy and safe life.

In elementary schools, most schools have no regulations regarding clothing and belongings, however, the students usually change into comfortable and stretchable clothing during physical education. In junior high schools, most schools have their own school uniforms. Students wear comfortable shoes.

In the school buildings, students change into indoor shoes in most schools.

Most schools prohibit manicures and accessories such as pierced earrings to be worn when going to school. Usually, a student may not buy and eat snacks in school.

⑤ Health and Safety

The school pays strict attention to the health and safety of the students.

◆School Clinic (Hoken shitsu)

When a student gets sick or injured, the school nurse gives first aid in the school clinic and, if necessary, will contact a hospital or the family. The school nurse also monitors students' health and gives health guidance and counselling at the school clinic.

◆定期健康診断

児童生徒の健康状態を把握するために、法律の定めるところにより、定期的に健康診断を行います。その結果に基づいて、治療勧告や保健指導を実施します。

○学校が行う検査

身長、体重、視力、聴力、結核、心電図、尿検査等
(学年により実施しないものもあります。)

○学校医による診察

内科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科

◆独立行政法人日本スポーツ振興センター「災害共済給付」

学校生活中の事故やけがに備える制度として、「独立行政法人日本スポーツ振興センター」の「災害共済給付制度」が設けられています。

掛金の一部は保護者の負担になっています。

⑥ 学校と家庭の連携

学校には、「PTA」という保護者と先生の会があり、協力しあって教育が円滑に進むよう支援する活動をしています。

保護者と先生が協力して、「親子参加による自然体験」や「登下校時の安全指導」などの活動を行います。

◆Regular Health Checks (Teiki kenkou shindan)

To monitor the students' health condition, as dictated by the law, regular health checks are done. Based on the results, treatment recommendations and health guidance, etc., are given to the parents.

○Examinations done by the School

Height, weight, eyesight, hearing, tuberculosis, electrocardiogram, urinalysis, etc.
(not all health checks are given to all grades) .

○Examinations done by the School Doctors

Internal medicine, eye doctor, ear/nose/throat doctor and dentist.

◆National Agency for the Advancement of Sports and Health

[Disaster Mutual Benefit System] (Saigai kyousai kyuufu)

In case of accident or injury at the school, a "Casualty Insurance" system is provided by the National Agency for the Advancement of Sports and Health.

The parents or guardians pay a part of the premium.

⑥ Contacts between the School and the Families

There is a group in school called the PTA that consists of parents/guardians and teachers. This group works together to support education at school.

The group offers activities such as "Experiencing Nature with Parents and Students" and "Safety Guidance for Travelling to and from the School," etc.

4. 教育相談について

① 学校の教育相談

日本の学校では、保護者と学校の先生が子供のことを話し合う教育相談の機会があります。子供の学校生活上の問題、例えば、いじめ、不登校、進学悩みなどは、この機会を利用するとよいでしょう。必要な場合は、通訳などを介して相談することもよいでしょう。

◆家庭訪問

担任の先生が子供の家庭を訪問して、子供の学校や家庭での様子について保護者と話し合います。実施しない学校もあります。

◆保護者会

保護者が学校に行き、校長先生の話を書いたり、担任の先生と話し合いをしたりします。個人的な相談というよりは、子供たち全体に関わる問題について話し合うことが中心となります。

◆個人面談

通常は、子供自身や子供の保護者と担任の先生との間で行われる話し合いや相談のことをいいます（子供、保護者、担任の先生の三人で話し合うこともあります）。

個人的な悩みや問題を相談する上で、最もよい機会となります。個人面談は、定められた日時に行いますが、担任から事前に通知されます。また、学校によっては、保護者の申し出により、都合のよい日時に面談の機会を持ったり、通訳をつけたりするなどの配慮をしていることもあります。

4. About Educational Counseling

① Educational Counseling in School

In Japanese schools, there are opportunities for educational counseling in which parents/guardians and teachers exchange information about children's issues. Topics such as bullying, refusal to go to school, career guidance, etc., can be discussed. When necessary, an interpreter will be made available.

◆Home Visitation (Katei houmon)

The class teacher visits the children's home and discusses the child's life at school and at home. There are schools which do not do this.

◆Parent-Teacher Meetings (Hogosha kai)

Parents/guardians go to school to listen to the principal and/or talk with the class teacher. Topics often relate to issues common to all the children as a group rather than those of individual children.

◆Individual Interview (Kojin mendan)

This meeting normally takes place between the class teacher and either the child or the parent/guardian. (It can take also place as a three- way discussion including the child, parent and teacher.)

This is a good opportunity to talk about personal problems and concerns. Individual interviews are done on a specific time and date which the class teacher will advise beforehand. At some schools, if the parent/guardian will request it, the interview can be done at a date that is convenient for the parent/guardian, other considerations like arranging for an interpreter is also done.

② 学校以外の教育相談機関

学校以外にも、子供の教育相談を行う機関があります。特別支援教育を含む就学に関わる相談や、いじめ、不登校などについては、都道府県や市区町村の教育委員会が相談窓口となります。

◆都道府県・市区町村の教育相談機関

○就学相談窓口

小学校・中学校は市区町村教育委員会、公立の高等学校や特別支援学校は都道府県教育委員会が窓口となります。

○外国人専用相談窓口

都道府県や市区町村の役場の中には、教育相談も含めた一般相談の外国人専用窓口があるところもあり、英語、中国語、ポルトガル語、スペイン語などで相談することができる場合もあります。

② Educational Counseling Facilities Outside of School

There are other educational counseling facilities aside from the school. Prefectural and municipal boards of education provide opportunities to consult about children's education on topics such as special support education for children with disabilities, bullying, refusal to go to school, etc.

◆ Educational Consultation Facilities of the Prefectural and Municipal Governments

○ School Entry Consultation

Consultations to the municipal board of education can be done through the elementary and junior high schools, while consultations to the prefectural board of education can be done through public senior high school and schools for special needs education.

○ Consultations for Foreigners

There are prefectural and municipal offices with a consultation counter specially reserved for foreigners for general consultations including educational consultations, and there are counters where consultations can be done in English, Chinese, Portuguese, Spanish and other languages.

[就学案内の例]

ねん がつ にち
年 月 日

ほごしや さま
保護者 様

きょういくいいんかい
教育委員会

こさま にゅうがく
お子様の入学にあたって

あなたのお子様は4月から小学校(中学校)に入学する年齢となりますので、
下記の小学校(中学校)に入学を希望される場合は、ねん がつ にち
年 月 日までに教育委員
員会に就学申請書を提出してください。

かくがっこう こくせき ちが へんけん きべつ くに せいかつ
各学校では、国籍が違うことによる偏見や差別をなくし、それぞれの国の生活や
ぶんか りかい い たいど そだ どりよく
文化を理解し、ともに生きていこうとする態度を育てるための努力をしています。

き
記

にゅうがく よていこう
入学予定校：

にゅうがく き じつ ねん がつ にち
入学期日： 年 月 日

[就学案内の例]

Date: / / (YY/MM/DD)

To: Parents/Guardians

From: Board of Education

Re: Entrance of Your Child into a Municipal School

Since your child is of eligible age for entrance to elementary (junior high school) starting from April 1, please file the admission application form with the Board of Education by / / (YY/MM/DD) if you would like to enroll your child in the elementary (junior high school) written below.

All schools strive to eliminate prejudice and discrimination against people of foreign countries, understand the culture and lifestyle of each country and foster a positive attitude for living together in harmony.

Note

School Slated for Entrance:

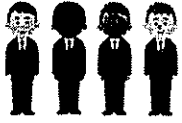
School Entrance Date: / / (YY/MM/DD)

発行元：文部科学省国際教育課
東京都千代田区霞が関 3-2-2
03-5253-4111 (2035)

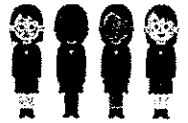
Publisher: Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology
3-2-2 Kasumigaseki, Chiyoda-ku, Tokyo
03-5253-4111 (2035)

Для іноземних учнів, які бажають навчатися у старшій середній школі

~Інформація про систему фінансової допомоги для учнів старшої середньої школи~



Ви сплачуєте за навчання: 0 ієн



【Хто може користуватися системою фінансової допомоги】

○ **Ви маєте відповідати обом наступним вимогам.**

- Ви відвідуєте старшу середню школу.
- Ви маєте адресу в Японії.

Якщо ви відвідуєте міжнародну школу (школа для дітей з іноземним походженням), у деяких випадках у вас також може бути право скористатися системою фінансової допомоги. Список шкіл, у яких працює система фінансової допомоги, можна подивитись на вказаній веб-сторінці.



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1307345.htm



○ **Ви не маєте права користуватися системою фінансової допомоги, якщо до вас застосовується принаймні одна з наведених нижче умов.**

- Річний дохід ваших батьків перевищує 9 100 000 ієн.
- Ви вже закінчили старшу середню школу.
- Ви навчалися у старшій середній школі довше 36 місяців.

Державна старша
середня школа

Ви платите 0 ієн.

Приватна старша
середня школа

Ви платите 0 ієн або
частину плати за
навчання.

*Залежить від доходу
ваших батьків

※ Плата за навчання вноситься японським урядом на рахунок школи (державна старша середня школа: 118 800 ієн на рік; приватна старша середня школа: від 118 800 до 396 000 ієн на рік). Учні та їхні батьки гроші не отримують.

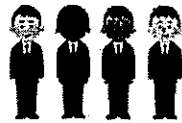
Школа надасть вам необхідні документи під час зарахування.

Заповніть ці документи та надайте їх школі.

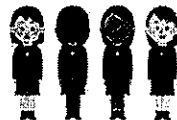


高校で勉強したい外国人のみなさんへ

～高等学校等就学支援金制度のことを教えます～



あなたが払う 授業料が 0 円になります



【この制度を使うことができる人】

○ 次の 2 つの どちらにも 当てはまる 人 です。

・ 高校に通っている ・ 日本に住所がある
外国人学校 <外国人の子どものための学校> に通っている人でも、使うことができる場合があります。どの学校で使うことができるのかは、次のウェブサイトを見てください。 ➡ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1307345.htm



○ 次のうち 1 つでも 当てはまる 人は、この制度を使うことができません。

- ・ 親が 1 年間に 稼ぐ お金が 910 万円より 多い 人
- ・ 高校を 卒業 した 人
- ・ 高校に 36 か月より 長い間 いる 人

公立高校

あなたが払う授業料は 0 円

私立高校

あなたが払う授業料は 0 円 か、
お金を払うこともあります。

※親の稼ぐお金によって 違います。

※授業料は、国が学校に払います (公立高校：1年に11万8,800円、私立高校：1年に11万8,800円から39万6,000円まで)。生徒や親はお金をもらいません。

学校に入ったとき、必要な書類を学校があなたに渡します。
書類を書いて、学校に出してください。



Today I would like to tell all foreign residents who wish to study at Japanese high schools about the High School Tuition Support Fund.



Under this system, you pay nothing in tuition costs.



Persons for whom any of the following conditions apply
can make use of the system.

○ The following two categories of persons can utilize this system.

- Students attending high school
- Residents in Japan

Students attending schools for foreigners (schools for children of foreigners) can also utilize this system. Please see the following website to find out which schools are eligible for the support fund.



https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/mushouka/1307345.htm



○ Persons for whom any of the following conditions apply may not make use of the system.

- Students whose parent(s) earn 9.1 million yen or more per year.
- Students who have already graduated from high school.
- Students who have been attending high school for 36 months or more.

Public high schools

You pay no tuition.

Private high schools

You pay no tuition or some amount of it.

*It depends on the amount of income your parent(s) earn.

*The government pays the tuition amount to the school (public high school: 118,800 yen per year; private high school: from 118,800 yen to 396,000 yen per year). Students and parents do not receive the money directly.

When you go to your high school, the school will provide you with the necessary application documents.

Please fill out the application documents and return them to the school.

